

1390迄 (1294件)

1371年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダガラ王国マハラジャ「Prabu Raja Wastu/Niskala Wastu Kancana/Sang Mok teng Nusalarang」(~1475年)

1371年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Virodaya Cinkaiariyan」(~1380年)

1371年-04:00|ロシア| |||<即位>リザン大公・ブロンスカ公「ウジミル・トミトリウイチ」(~1372年)

1371年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクス公「ニコロ3世ダッレ・カルチェリ」(~1383年3月)

1371年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア皇帝「ヨヴァン・カシム・パオロコス」(~1381年讓位)

1371年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<復元>アトスは東ローマ帝国(ビザンチン帝国)の一部

1371年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・バン「カル2世ドラチキ(=カローリー・ドラツツォイ)」(~1376年)

1371年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Jean Coke」(1期目)

1371年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Giefroy de Saint-Martin」(~13720502)

1371年1月1日-09:00|日本|愛知県|建徳元:応安3年12月15日|管領細川頼之が尾張守護土岐頼康を討とうとし土岐頼康は尾張に下向

1371年1月17日-08:00|モンゴル| ||元・宣光1年|北元の昭宗「ユルリダラ」が宣光(~1379年)と改元

1371年1月18日-09:00|日本| ||建徳2・応安4年|<交替>上野国守護「上杉能憲」⇒「上杉憲春」(~天授5・永和5(1379)年3月7日死去)

1371年1月18日-09:00|日本| ||建徳2:応安4年|「太平記」成る

1371年1月18日-09:00|日本|香川県高松市|建徳2・応安4年|細川頼之、石清尾八幡宮の社殿を造営

1371年1月18日-09:00|日本|静岡県浜松市|建徳2:応安4年|後醍醐天皇の皇子無文元選禅師によって大本山方広寺奥山半僧坊創建<臨済宗大本山>

1371年2月16日-09:00|日本| ||建徳2・応安4年2月|<交替>備後国守護「渋川義行」⇒「今川貞世」(~康暦元・天授5(1379)年8月)

1371年2月16日-09:00|日本| ||建徳2・応安4年2月|<任命>安芸国守護「今川貞世」(~元中7・康応2(1390)年)

1371年2月16日-09:00|日本| ||建徳2・応安4年2月|<任命>九州探題「今川貞世」(~応永2年(1395年)8月罷免)

1371年2月16日-09:00|日本| ||建徳2:応安4年2月|<任命>肥前国守護「今川貞世」(~応永2(1395)年閏7月解任)

1371年2月17日-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・アレクサンダル」

1371年2月17日-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・シシュマン」(~13950603死去)

1371年2月22日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「デヴィッド2世」46歳

1371年2月22日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「ロバート2世」ウォルター・ステュアートとマージョリー・フールスの息子(~13900419死去74歳)

1371年3月4日-01:00|フランス| |||<死去>ジャンヌ・デヴール(生年1310年、フランス王シャルル4世の3度目の王妃)

1371年3月26日 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサーン伯「デヴィッド・ステュアート」ロバート2世の息子(~1386年死去)

1371年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「ニノ・デ・イ・シモノ」「マクシオ・デ・トソ・アルベルゲッティ」

1371年4月9日-09:00|日本| ||建徳2:応安4年3月23日|<讓位>北朝4代「後光厳天皇」⇒<踐祚>緒仁親王

1371年4月14日-09:00|日本|京都府|建徳2・応安4年3月28日|<死去>丹波国守護「山名時氏」(69歳)⇒息子の山名氏清が継ぐ(~元中8年・明德2年(1391年))

1371年4月14日-09:00|日本|島根県|建徳2・応安4年3月28日|<死去>伯耆国守護「山名時氏」(69歳)⇒息子の山名時義が継ぐ(~元中6年・康応元年(1389年)5月4日没)

1371年4月16日-07:00|ベトナム| ||大越・紹慶2年閏3月|チャンパが昇竜を攻撃

1371年4月18日-09:00|日本|大分県|建徳2:応安4年閏3月3日|菊池武政、大友氏時を豊後竹長に戦って宮熊・佐伯2城を陥れる

1371年5月15日-09:00|日本|広島県廿日市市|建徳2:応安4年4月|厳島社大鳥居再興

1371年7月9日-09:00|日本|福井県小浜市|建徳2:応安4年5月26日|若狭守護方が遠敷郡野木山に布陣のところ、国人一揆方が玉置荘に討ち入ったため玉置河原で決戦となり、国人一揆方が敗れる

1371年8月3日-08:00|中国| ||明・洪武4年6月22日|明、夏を滅ぼす

1371年8月10日-09:00|日本|島根県|建徳2・応安4年6月29日|<死去>明石覚一(生年1299年/僧、琵琶奏者)

1371年8月16日-09:00|日本|京都府八幡市|建徳2:応安4年7月6日|北朝が石清水八幡宮神殿を破却

1371年8月23日-01:00|フランス| |||<死去>サンポール伯・リネー伯「ギー」

1371年8月23日-01:00|フランス| |||<就任>サンポール伯・リネー伯「ワラン3世」(~14150412死去)

1371年8月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルプスト侯「Waldemar2世」

1371年8月24日-01:00|オランダ| |||<死去>ゲルテルン公「エドゥアルト」

1371年8月24日-01:00|オランダ| |||<復位>ゲルテルン公「ライナルト3世(レイウト3世)」(2期目~12.4死去)

1371年8月28日-09:00|日本|富山県|建徳2:応安4年7月18日|南朝方の桃井直常、越中で斯波義将に敗れる

1371年9月 00:00|イギリス| |||<死去>8代オックスフォード伯「トマス・ダウアー」

1371年9月 00:00|イギリス| |||<就任>9代オックスフォード伯「ロバート・ダウアー」先代の子(⇒13851201兼ダブリン侯⇒13861013兼アイルランド公、1388.2剥奪~13921122事故死)

1371年9月2日-09:00|日本|大分県国東市|建徳2:応安4年7月23日|今川義範、菊池武光の若党平賀新左衛門尉が田原氏能の分領国豊後国東郷に構えた要害を攻落し、平賀彦次郎ら3人討取る

1371年9月17日-09:00|日本|富山県|建徳2:応安4年8月8日|越中守護斯波義将が越中より南朝方(桃井直常)放逐、斯波義将の名声たかまる

1371年9月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ＝ヴァイルブルク伯「John1世」

1371年9月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ＝ヴァイルブルク伯「Philip1世」(~14290702死去)

1390迄 (1294件)

1371年9月25日-01:00|セルビア/トルコ| ||マリツァ川の戦い/オスマン・トルコ軍が、南セルビア諸国連合軍とマリツァ川沿いのチルノメンで戦い、勝利

1371年9月26日-01:00|セルビア| ||<死去>セルビア共同皇帝(ネマニッチ朝)「ヴカシン・ムルニャヴ・チェウ・イッチ」マリツァの戦いで戦死/ネマニッチ朝が滅亡

1371年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ヌッチョリーノ・デ・イ・シオロ」「バルトリノ・デ・イ・ジ・ヨヴァンニ・デ・イ・ビアンコ」

1371年10月9日-08:00|中国| ||明・洪武4年9月|明、華中諸省に糧長制を施行

1371年11月22日-09:00|日本| ||建徳2・応安4年10月15日|上杉能憲、鎌倉に報恩寺を創建

1371年12月3日-01:00|北マケドニア/セルビア| ||マケドニアはセルビアの一部(~1377年)

1371年12月4日-02:00|ギリシャ| ||<死去>テッサリア皇帝「シメオン・ウロシュ・パレオログス」(生年生年未詳/元化°ロズ専制公)

1371年12月4日-01:00|オランダ| ||<死去>ゲルデルン公「ライナルト3世(レイウト3世)」

1371年12月12日-09:00|日本|大阪府大阪市平野区|建徳2・応安4年11月5日|幕府軍は、河内国瓜破城を攻城中だった南朝軍に勝利、南朝の湯浅党は100余人の戦死者を出した

1371年12月31日-09:00|日本|佐賀県|建徳2・応安4年11月24日|今川軍、塚崎西山村白木砦を攻め取る

1372年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナテ・スルトン「Gapi Baguna1世」(~1377年)

1372年-08:00|中国/フィリピン| ||フィリピン諸島から明朝へ、朝貢使節が派遣

1372年-07:00|ラオス/タイ| ||<即位>ランサン王朝国王「ウン・ムアン(サムセーン・タイ)王」(~1416年死去)

1372年-07:00|ラオス/タイ| ||<退位>ランサン王朝国王「ファー・グム(ファラート・ラニー)王」

1372年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ウルス・ハン」(~1374年)

1372年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<死去>シルヴァンシャ-朝国王「Kavus1世」

1372年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<即位>シルヴァンシャ-朝国王「Hushang1世」(~1382年死去)

1372年-04:00|ロシア| ||<即位>プロンスク公「ダニラ」(~1378年)

1372年-04:00|ロシア| ||<復位>リャザン大公「オレグ2世(ウァノヴァイ)」(~1402年)

1372年-03:00|エチオピア| ||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ネヤ・クレスト」

1372年-03:00|イエメン| ||<死去>ラッシー朝イマム「アルマデ・イ・アリ・ビン・ムハンマド」

1372年-03:00|エチオピア| ||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ネヴァ・マリアム・ネヤ・クレスト」(~1382年死去)

1372年-03:00|イエメン| ||<即位>ラッシー朝イマム「アルナジール・ムハンマド・サラ・アルデイン」アルマデ・イ・アリの息子(~13911102死去)

1372年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「フランチェスコ・モロシーニ」(~1374年)

1372年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| ||<即位>チェルニヒウ大公(フリャンスク公)「グドミトリー」カリフ・タス・アルギルダイトス(~1393年)

1372年-01:00|フランス| ||<死去>プロヴァン伯「ルイ3世」

1372年-01:00|マルタ/イタリア| ||<就任>シチリア領マルタ副総督「Guglielmo Murina」(~1399年)

1372年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア・ハン「ニコラ・セーチ」(~1373年)

1372年-01:00|フランス| ||<就任>プロヴァン伯「John2世」(~1381年死去)

1372年-01:00|ドイツ| ||<就任>リュエゲン公「グアルティスラフ7世」(~1394年)

1372年-01:00|イタリア| ||<即位>モンフェラート侯国(パレオログ家)「オットー・ネ3世」(~1378年)

1372年-01:00|フランス| ||<退位>アキテーヌ公「エドゥアル4世」ウェールズ公「エドワード」黒太子

1372年-01:00|フランス| ||<復位>アキテーヌ公「エドゥアル3世」イングランド王「エドワード3世」(~13770621死去)

1372年-01:00|アルジェリア| ||<復位>ザイヤン朝スルタン「アブー・ハム2世」(~1383年)

1372年-01:00|イタリア| ||トリエステはアキレヤ総主教区の一部(~1377年)

1372年 00:00|ギリシャ| ||<就任>初代マリ伯「ジョン・ダニバー」先代の甥(~1390年死去)

1372年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド支配者「アントニス・スヴェインソン」(~1387年)

1372年 00:00|チンキ諸島/ギリシャ| ||<就任>ギリシャ王領ラージ-島守護者「Ralph de Harmesthrope」(~1373年)

1372年 00:00|ギリシャ| ||<即位>ウェールズ公「オウエイン・アブ・トマス・アブ・ロドリ」(~1378年)

1372年 00:00|モロッコ| ||<即位>マリーン朝スルタン「アブール・アッバス・アフマト」(~1374年)

1372年 00:00|ギリシャ| ||<剥奪>ウィグタウン伯「Thomas Fleming」(~1382年死去)

1372年 00:00|ポルトガル| ||ポルトガル王フェルナント1世は、百年戦争でフランスと戦うギリシャと同盟し、カスティリアと戦いを交えた

1372年1月5日-09:00|日本|兵庫県|建徳2・応安4年11月29日|<死去>播磨・備前国守護「赤松則祐」子の義則が継ぐ(~応永34(1427)年9月21日死去)

1372年2月5日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|二条良基「連歌新式」を撰ぶ

1372年2月6日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|<交替>阿波国守護「細川頼之」⇒弟の「細川頼有」(~天授5・永和5(1379)年)

1372年2月6日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|<交替>伊勢・志摩国守護「細川頼之」⇒「細川満之」(~天授2・永和2(1376)年)

1372年2月6日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|<任命>(南朝)豊後国守護「大友氏継」(~天授2・永和2(1376)年)

1372年2月6日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|<任命>但馬国守護「山名師義」(~天授2・永和2年3月11日(13760331)死去)

1372年2月6日-09:00|日本| ||建徳3・応安5年|<任命>飛騨国守護「京極高秀」(~天授5・康暦元(1379)年2月解任)

1372年2月6日-09:00|韓国/日本| ||高麗・洪武5年;建徳3年|倭・白州・順天・鎮湟倉・江陵府・安辺咸州に寇す

1372年2月6日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建徳3・文中元;応安5年|この年、鎌倉宝戒寺の惟賢和尚座像できる

1372年2月8日-09:00|日本|大分県大分市|建徳3;応安5年1月3日|(前年8月6日~)今川了俊の子義範が高崎城に入

1390迄 (1294件)

ると菊池武光は伊倉宮を奉じて百余度も城を攻めたが陥落させることはできず高崎城の攻囲を解き、大宰府に退く

1372年3月15日-09:00|日本|福岡県北九州市八幡西区|建徳3; 応安5年2月10日|今川貞世、筑前多良倉、鷹見嶽城を落とす/少弐、大内も北軍として参加

1372年3月18日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|建徳3; 応安5年2月13日|菊池武政、今川仲秋を烏帽子嶽に襲う。深堀時弘、龍造寺熊龍丸らが防ぐ

1372年3月19日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェラート侯「オットー3世」ジヨヴァンニ2世の長男(〜13781216)

1372年3月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>「バーテン＝バーテン」辺境伯「ルト」ル76世

1372年3月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>「バーテン＝バーテン」辺境伯「ルト」ル77世(〜1391年死去)、「ベルンハルト1世」(〜14310405死去)

1372年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コルベッロ・デ・イ・ヴァー・タ・ジ・ヤンニニ」「ミニョーネ・バウト」

1372年4月6日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「キルデア伯モリス・フィッツジェラルド」(〜7. 16)

1372年4月17日-09:00|日本| ||建徳3; 応安5年3月13日|<死去>頼阿(84歳、生年1289年/僧、歌人)

1372年4月17日-09:00|日本|京都府京都市西京区|建徳3; 応安5年3月13日|西山善峰寺が炎上

1372年5月2日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Edmund Rose卿」(⇒13731120守護者〜1374年)

1372年5月4日-09:00|日本| ||文中元; 応安5年4月|南朝が「文中」に改元

1372年6月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>「ガーンジー-島」フランス司令官「Yvon de Galles」(〜1372. 7)

1372年6月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ウェールズのオーウェが率いるフランスの有給アゴン傭兵が「ガーンジー-島」を占領(〜7月)

1372年6月5日 00:00|イギリス| |||<退任>「リッチモンド」伯「ジョン(オブ・ゴート)」⇒初代ランカスター公(⇒13900302兼7キーン公〜13990203死去)

1372年6月20日 00:00|イギリス| |||<就任>「リッチモンド」伯「ジョン4世」ブルターニュ公(〜13991101死去)

1372年6月22日-09:00|日本|静岡県富士市|文中元; 応安5年5月21日|上杉中務少輔禪助、福王寺(今泉水ノ上)を善得寺と改称

1372年6月23日-01:00|フランス/イギリス| |||フランスが、カスティリヤ海軍の助けでラ・ロシエルの海戦でイングランド海軍を破る

1372年7月12日-09:00|日本| ||建徳3; 応安5年6月11日|<死去>冷泉為秀(生年生年未詳/公卿、歌人)

1372年7月16日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ロバート・デ・アシュトン卿」(〜13731202)

1372年8月7日-01:00|フランス/イギリス| |||「フランス軍」の総指揮官「ベルタン・デュ・ゲラン」北アキテーヌの「ボワティエ(フランス西部)」に入城

1372年8月24日-01:00|ポランド/ドイツ| |||<死去>「ボナムル＝シュテッティン」公「カジミール3世」

1372年8月24日-01:00|ポランド/ドイツ| |||<就任>「ボナムル＝シュテッティン」公「シュヴァイェントボ」ル3世(〜14130621死去)、「ボギスラフ7世」年長公(〜1404年死去)

1372年8月31日 00:00|イギリス| |||<死去>「スタッフォード」伯「Ralph Stafford」

1372年8月31日 00:00|イギリス| |||<就任>「スタッフォード」伯「Hugh Stafford」(〜13861016死去)

1372年9月1日-09:00|日本|福岡県太宰府市|文中元; 応安5年8月4日|今川仲秋、綾部を出陣し酒見城を攻めている

菊地肥前守武安を破り、大宰府有智山城に退いた菊地武安を追って筑前に入り今川了俊に合流

1372年9月7日-09:00|日本|福岡県筑紫野市|文中元; 応安5年8月10日|今川了俊、天拝城菊地武安を攻落す/筑前大野城主大野式部大輔乗資、2日市峯畑に討死

1372年9月8日-01:00|フランス| |||「フランス軍」、フランス西部の「ラ・ロシエル沖の戦い」で「カスティリヤ艦隊」の協力によりイングランド海軍を破る/「ブルターニュ公」ジョン4世はイングランドに亡命/フランス軍の総指揮官「ベルタン・デュ・ゲラン」はフランス北西部「ブルターニュ全土」を制圧

1372年9月8日-09:00|日本|福岡県太宰府市|文中元; 応安5年8月11日|今川了俊、大宰府有智山城攻落す

1372年9月9日-09:00|日本|福岡県太宰府市|文中元; 応安5年8月12日|幕將の今川貞世によって大宰府が陥落して

懷良親王が落ち延び、ここに南朝主戦派の望みは完全に絶たれた

1372年9月19日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|文中元; 応安5年8月22日|法隆寺地蔵堂できる

1372年9月19日-09:00|日本|福岡県福岡市|文中元; 応安5年8月22日|今川了俊が周布士心を派遣して豊前国鷲尾城攻落とさせる

1372年9月29日-01:00|ポランド| |||<死去>「オシフィエンチム」公「ヤン1世」スワスチク

1372年9月29日-01:00|ポランド| |||<就任>「オシフィエンチム」公「ヤン2世」(〜13760219死去)

1372年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「イムレ・ラフィ・ケレカジー」(〜1375年5月死去)

1372年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジヨヴァンニ・デ・イ・リカ・ツォ」「マルティノ・デ・イ・ゲロ・ロ・ピストルジ」

1372年11月9日-07:00|ベトナム| ||大越・紹慶3年10月14日|<譲位>陳朝(大越) 皇帝「芸宗」

1372年11月9日-07:00|ベトナム| ||大越・紹慶3年10月14日|<即位>陳朝(大越) 皇帝「睿宗」(〜13770304(隆慶5年1月24日)死去)

1372年12月13日-09:00|日本| ||文中元; 応安5年11月18日|幕府が諸社神人の濫訴を禁制

1373年-07:00|カンボジア| |||<即位>「ケメル」王朝国王「トマー・サク」(〜1393年)

1373年-07:00|ベトナム| ||大越・大治3年|<即位>「パントウランガ」王「Po Parican(Ba Phat)」(〜1397年)

1373年-05:30|インド| |||<即位>「カシュミール」スルターン朝スルターン「Qutub' d-Din」(〜1389年)

1373年-05:30|スリランカ| |||<即位>「ガンボラ」王 国王「Bhuvanai kabahu5世」(〜1391年)

1373年-05:00|ウズベキスタン| |||「ティムール」が「ホラズム」を制圧

1373年-04:00|アルメニア| |||<死去>「キリキア」アルメニア王 国王「コンスタンティヌス4世」

1373年-02:00|トルコ| |||<死去>「キリキア」アルメニア王 国王「コンスタンティン6世」

1390迄 (1294件)

1373年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイ公「ジ・ヨウ・アンナ(ナリ女王)」(~1381年)
1373年-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国執事「フレンツェル」
1373年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブ・ラウシュウ・アイク=ウ・オルフェンビュッテル侯「フリート・リヒ1世」(~14000605暗殺された)
1373年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア侯「ザール・フレベ・ルナヴ・イツ・ツァーリ・ラザール」(~13890615、コソボの戦いでセルビアの政治エリートの大半と共に殺された)
1373年-01:00|ポーランド| |||<即位>ワルシャワ公「ヤヌシュ1世」シモグ・イト3世の息子(~14291208死去)
1373年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島守護者「Gautier Hewet卿」
1373年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Guillaume d'Asthorp」(~1374年)
1373年1月15日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<死去>ゼータ・リトラル卿「ストラシール・バルツィチ」
1373年1月16日 00:00|イギリス| |||<死去>エックス伯・ノサンプトン伯「ハンフリー・ド・ブーン」
1373年1月24日-07:00|ベトナム| ||大越・降慶1年|大越・降慶と改元(-1377)
1373年1月25日-09:00|日本| ||文中2:応安6年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「土岐義行」⇒「今川国泰」⇒「細川頼元」(~1375年)
1373年1月25日-09:00|日本| ||文中2:応安6年|<任命>肥後国守護「今川貞世」(~天授5・康暦1(1379)年)
1373年2月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イシュトヴァーン2世ラックワイ」(~1376年4月)
1373年3月25日-09:00|日本|長崎県|文中2:応安6年3月1日|今川兵部大輔、肥前高来で伊佐早右近五郎を下し、さらに西郷藤三郎を宇木城に攻め
1373年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ウゴリーノ・デ・イ・ジョヴァンニ」「ルカ・デ・イ・ノ・デ・イ・ベ・ルナルド」
1373年6月13日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||ロンドン条約が結ばれ、イギリスとポルトガルの同盟が成立
1373年6月21日-09:00|日本| ||文中2:応安6年6月|<任命>紀伊国守護「細川氏春」(~不詳)
1373年7月23日-09:00|日本|熊本県合志市|文中2:応安6年7月3日|肥前合志にて合戦、今川了俊六万八千、菊池武朝五千に敗れる/北軍川尻幸明を誅す
1373年7月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブ・ラウシュウ・アイク=ウ・オルフェンビュッテル侯兼リュネブルク侯「マグヌス2世首輪公」
1373年7月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブ・ラウシュウ・アイク=ウ・オルフェンビュッテル侯「フリート・リヒ1世」マグヌス2世の息子(~14000605暗殺された)
1373年8月9日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「イブラヒム・シャー」
1373年8月9日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「スライマン・シャー1世」(~14230802死去)
1373年8月18日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<退任>ブ・ランデンブルク選帝侯「オットー7世」
1373年8月28日-09:00|日本|大阪府河内長野市|文中2:応安6年8月10日|細川氏春を大将として正儀と赤松光範が南朝臨時首都の天野行宮を攻め、正儀は先鋒武将として幕軍を先導し、天野行宮は陥落、長慶天皇は逃れた/このとき、南朝軍は幕府軍に対し夜襲を仕掛け、数刻(2~6時間)の戦闘になり幕府軍は40人余りが戦死、南朝軍は四条隆俊以下70人余りが討ち取られた
1373年9月12日-09:00|日本| ||文中2:応安6年8月25日|<死去>佐々木道誉(生年1296年/元若狭・近江・出雲・上総・飛騨・摂津守護)
1373年9月18日-09:00|日本|京都府京都市|文中2:応安6年9月2日|京都に大風が襲う/内裏・醍醐寺など社殿堂の多くが損壊
1373年9月21日-01:00|ハンガリー/イタリア| |||ベネチア、ハンガリーとの有利な和平
1373年9月22日-09:00|日本|長崎県雲仙市|文中2:応安6年9月6日|今川了俊・太宰右衛門佐頼泰、千々岩に到り浜手に於いて、宮方に打ち勝ち柏崎に陣
1373年10月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ラルフ・チェン卿」(~11. 15)
1373年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パオロ・デ・イ・チェッコロ」「アンソニー・デ・イ・ムラ」
1373年10月1日-01:00|イタリア/キプロス| |||ジェノヴァ人、ファモスタ(キプロス島首都)を占領(~13740430)王族を捕らえる
1373年10月2日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブ・ランデンブルク選帝侯「ウエツェル」神聖ローマ皇帝カル4世の息子(~13781129退任)
1373年10月14日-09:00|日本|京都府京都市右京区|文中2:応安6年9月28日|天龍寺火災、仏殿、法堂、三門などが焼失
1373年10月22日-09:00|日本|静岡県三島市|文中2:応安6年10月6日|伊豆三島社(大宮町)炎上
1373年10月25日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文中2:応安6年10月9日|幕府が鎌倉五山の制を定める
1373年11月3日-01:00|スペイン| |||<死去>ジャンヌ・ド・ヴァロワ(生年1343年、ナバラ王カルロス(シャルル)2世の妃)
1373年11月15日-01:00|ドイツ| |||<退任>ブ・ランデンブルク辺境伯「オットー2世」
1373年11月15日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ジョン・ケック」(~12. 3)
1373年11月20日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Edmund Rose卿」(~1374年)
1373年12月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「キルメイナム修院長ウィリアム・ターナー」(~13740418)
1373年12月15日-08:00|中国| ||明・洪武6年閏11月|大明律令を制定し明初の諸改革を実施、胡服弁髪を廃止し科挙を復活
1373年12月16日-09:00|日本|京都府京都市|文中2:応安6年11月3日|賀茂社が火災となり神宮寺経蔵、鐘楼などが焼失
1374年-09:00|韓国/日本| ||恭愍王23年|倭・木尾島・紫燕島・江陵・安州・密州を寇す
1374年-07:00|ラオス/タイ| |||<即位>ランサン王朝国王「ウン・ムアン(サムセン・タイ)王」(~1417年)
1374年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ハジ・チルクス」(~1375年)
1374年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティムグ朝スルタン「Abdullah1世 Dhammaru Aadheettha」Khadijahの2番目の夫(~1376年暗殺される)

1390迄 (1294件)

1374年-05:00|モルデイグ| |||<退位>ティームゲ朝「Sultana Khadijah Raadha Abaarana」
1374年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レオ5世」(~1375年)
1374年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ジャライル朝第3代国王「ハサン」(~同年)⇒第4代国王「フサイン1世」ウァイス1世の子(~1382年)
1374年-03:00|イラク/イラン/トルコ/アゼルバイジャン| |||<即位>黒羊朝スルターン「ハイラム・ホジャ」(~1378年)
1374年-02:00|ギリシャ| |||<死去>アルカの領主「ペテル・ロジャ」
1374年-02:00|ギリシャ| |||<就任>アルカの領主「ギン・ブ・ア・シュパタ」(~13991029死去)
1374年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ジョヴァンニ・グランド・ニコ」(~1376年)
1374年-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>フィンランド主任執政官「ホー・ヨソッ・グリップ」事実上フィンランドに対する自律的な支配権を獲得(~13860820)
1374年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レオ6世」(~1375年、マムルクによる占領)
1374年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ニコラ・セーチ」(~1380年)
1374年-01:00|ポーランド| |||<即位>プロウツク公「シモウ・イト4世」シモウ・イト3世の息子(~14260121死去)
1374年-01:00|ジブラルタル/スペイン| |||ジブラルタルはグラナダ首長国の一部
1374年 00:00|マリ| |||<死去>マリ帝国マサ「Mari Diata2世」
1374年 00:00|イギリス| |||<就任>10代マー女伯「マーガレット」(~1391年死去)
1374年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Jean Coke」(2期目)
1374年 00:00|イギリス| |||<就任>マリ伯「ジョン・ダンパー」先代の甥(~1390年死去)
1374年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マサ「マサ・ムサ2世」(~1387年)
1374年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||この頃、ポルトガル人がサントメ島を占領
1374年1月10日-09:00|日本|福岡県みやま市|文中2; 応安6年11月28日|大友親世、肥後を侵し、竹井原にて菊池方合志隆敏に敗れる
1374年2月-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ロベール・ト・ジュイ」(~1376年)
1374年2月12日-09:00|日本| ||文中3; 応安7年|<交替>摂津国守護「赤松光範」⇒「細川頼元」(~天授5・康暦元(1379)年閏4月14日)
1374年3月12日-09:00|日本| ||文中3; 応安7年1月29日|<死去>北朝4代「後光厳天皇」/37歳(誕生: 延元3・建武5(1338)0302)
1374年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アントニア・ディ・ナッス」
1374年4月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ウィリアム・デ・ウインザー卿」(~13760620)、代行「ジョン・ケック」(~13751031)
1374年4月23日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ボナムルン＝グオルカスト＝シュトルブ公「ボギスワフ5世大公」
1374年4月23日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボナムルン＝グオルカスト＝シュトルブ公「ガミール4世」(~13770102死去)
1374年4月29日-01:00|イタリア/キプロス| |||ファマクスタ条約によりジェノヴァのキプロス所有(批准13741021~14640106)
1374年6月15日-09:00|日本|山口県|文中3; 応安7年5月5日|筑紫探題今川了俊、長門で菊池武朝に敗れる/合志定実・御船盛安・岩野・鹿子・本牧・藤井・詫間・本庄・中村・沢江・五條は今川方に降る
1374年6月30日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<死去>リガ大司教・リヴァント公「ジークフリート・フォン・ブロムベルク」
1374年7月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト＝ベルンブルク侯「Henry4世」
1374年7月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト＝ベルンブルク侯「Otto3世」(~14040227死去)
1374年7月14日-01:00|イタリア/イギリス| |||ベネチア、英国(複数)派遣
1374年7月19日-01:00|イタリア| |||<死去>ペトラルカ(生年1304年/イタリアの詩人、学者、人文主義者)
1374年7月24日-09:00|日本|京都府京都市東山区|文中3; 応安7年6月15日|(~17日)大和結崎座の観阿弥・世阿弥父子が京都の今熊野神社で将軍・足利義満の前で猿楽公演
1374年7月29日-09:00|日本|滋賀県大津市|文中3; 応安7年6月20日|延暦寺が神輿修造の延滞を訴え、日吉・祇園・北野の神人とともに神輿六基を奉じて二度目の強訴
1374年8月9日-09:00|日本| ||文中3; 応安7年7月|懷良親王、征西将軍の職を良成親王に譲る
1374年8月12日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Thomas de Beauchamp」(~1376年)
1374年9月11日-09:00|日本|長崎県諫早市|文中3; 応安7年8月5日|今川了俊、宇木城(有喜町)攻落す
1374年9月25日-09:00|日本|京都府京都市右京区|文中3; 応安7年8月19日|幕府・天竜寺を造営
1374年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ディ・リグッチョ」
1374年10月6日-09:00|日本| ||文中3・応安7年9月|<任命>長門国守護「大内義弘」(~応永6(1399)年12月21日死去)
1374年10月11日-09:00|日本|大分県豊後高田市|文中3; 応安7年9月6日|豊前城井の田原氏能、豊後北浦辺花嶽城を攻め破る
1374年10月22日-09:00|日本|福岡県久留米市|文中3; 応安7年9月17日|菊池武朝が高良山の陣を撤収し肥後に帰る
1374年10月23日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「ヨハネス4世フォン・ツィーテン」(~13930924)
1374年10月27日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武7年9月22日|<死去>高麗王「恭愍王」殺害される
1374年10月30日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武7年9月25日|<即位>高麗王「王ウ(前廢王)」(~13880712退位)
1374年10月30日-09:00|日本|福岡県北九州市|文中3; 応安7年9月25日|蒲原氏兼、豊前城井高畑城落城させる
1374年11月25日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「フィリップ3世」
1374年11月25日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「ジャック・デ・ボア」フィリップ3世の甥(~13830717死去)

1390迄 (1294件)

1374年12月1日-01:00|スウェーデン| |||<死去>元スウェーデン王国国王「マグヌス4世」58才
1374年12月15日-09:00|日本|福岡県久留米市|文中3; 応安7年11月12日|今川義範、筑後川水縄村石垣城に打ち入り、水縄山の宮方を破る
1374年12月19日-09:00|日本|福岡県八女市|文中3; 応安7年11月16日|今川義範、八女郡黒木城衆を降参させる
1374年12月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文中3; 応安7年11月23日|鎌倉円覚寺、火災で全山焼失。続灯庵では13名の焼死者を出す。仏満禅師の提唱語句亡失
1374年12月28日-09:00|日本|熊本県熊本市|文中3; 応安7年11月25日|田原氏能・三河義匡ら、肥後小島に戦い、目野で千田・山本の南軍を走らせる
1374年12月29日-09:00|日本|熊本県熊本市|文中3; 応安7年11月26日|今川軍が肥後小島城を陥る
1375年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<復位>ジョチ・ウルス・ハン「ムハンマト・ボラク」(2期目~同年)⇒「Ghiyath-ud-din Khaqan Beg Khan Aybak」(~1377年)
1375年-04:00|ロシア| |||<即位>フスコフ公「マトヴェイ」(~1377年)
1375年-04:00|アルメニア/エジプト| |||キリキアのアルメニア王国がマムルーク朝に滅ぼされる
1375年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アリ・ビン・アジユン」(~1394年)
1375年-02:00|ルーマニア| |||<死去>モルダヴィア総督「ラシュク」
1375年-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ピョートル2世ムサト」(~1391年12月没)
1375年-02:00|エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴォニアのレヴァル司令官「ハインリヒ・フォン・エッペンハウゼン」(~1379年)
1375年-02:00|ギリシャ| |||<設立>アトスに聖ディオニシオス修道院
1375年-02:00|トルコ| |||<退位>キリキア・アルメニア王国国王「レヴォン6世」マムルークにより占領される
1375年-02:00|トルコ| |||オスマン朝がゲルミヤン侯国とハミド侯国を併合
1375年-01:00|スペイン| |||カタルニャで海図を作成、最古の地中海地図となる
1375年-01:00|イタリア| |||ベネチア、サン・ボルトとコロネスト・ミニニ、両教会建立
1375年-01:00|イタリア/イラク| |||ベネチア、バビロニアの سلطان と通商協定
1375年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王(請求者)「トイルデルバハ・マオル・オブ・リアン」ミューチャルタハ・オブ・リアンとエダ・オイン・ニ・ック・ゴルメインの息子(~1398年没)
1375年 00:00|ポルトガル| |||ポルトガル王フェルナントがセスリアシュ法を制定
1375年1月3日-09:00|日本|愛知県一宮市|文中3; 応安7年12月|吞光寺快寿房、尾張国石刀大明神に懸仏を施入
1375年1月9日-09:00|日本|熊本県熊本市|文中3; 応安7年12月7日|田原氏能・大友義匡、肥後国小島村の宮方の城を破り、肥後国日野陣に打ち寄せ、千田山本以下の宮方を退ける
1375年1月12日-09:00|日本| |||文中3; 応安7年12月10日|近江守護代儀元奇は遠江に、前参議平行平は美濃に、僧光済は播磨に、宗録は備中に流罪
1375年1月20日-01:00|スペイン| |||<死去>サルターニャ伯「James4世」
1375年1月20日-01:00|スペイン| |||<即位>マヨルカ王(僭称)・サルターニャ伯「イザベラ」(~1403年アラゴン王に統合)
1375年1月30日-09:00|日本| |||文中3年12月28日|<即位>北朝5代「後円融天皇」緒仁親王(~13820411)
1375年2月2日-09:00|日本| |||文中4; 応安8年|<交替>羽州探題「最上兼頼」引退⇒嫡男の「最上直家」(~応永17(1410)年1月6日死去)
1375年2月2日-09:00|日本| |||文中4; 応安8年|<交替>丹後国守護「山名師義」退任⇒「山名義幸」(~天授7・康暦3(1381)年)
1375年2月2日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|文中4・応安8年|法隆寺護摩堂弘法大師坐像(慶秀)できる
1375年2月2日-09:00|日本|福井県坂井市|文中4・応安8年|叡憲上人によって瀧谷寺創建
1375年2月9日-09:00|日本|京都府京都市東山区|文中4; 応安8年1月8日|吉祥寺開山中巖円月、京都建仁寺にて「中巖円月自歴譜」著述中に没する
1375年2月27日-09:00|日本| |||文中4; 応安8年1月26日|<任命>豊前国守護「今川貞世」(~天授3・永和3(1377)年)
1375年3月11日-09:00|日本|滋賀県大津市|文中4; 応安8年2月9日|延暦寺の僧房が焼ける
1375年3月29日-09:00|日本| |||文中4; 永和元年2月27日|北朝が「永和」に改元
1375年4月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ウゴリーノ・デ・イ・ジョヴァンニ」「パオリノ・デ・イ・ジョヴァンニ・デ・イ・ピアンコ」
1375年4月2日-08:00|中国| |||明・洪武8年3月|明で大明宝鈔の発行開始
1375年4月4日-09:00|日本|福岡県福岡市|文中4; 永和元年3月3日|今川了俊・大内義弘、筑前世振山の戦いで菊池武照・松浦・千葉・詫間武元と合戦。合志定実が北軍に降り菊池ら肥後に退く。井伊奥山遠江守直朝討死
1375年4月13日-02:00|トルコ/エジプト| |||キリキアのアルメニア王国がマムルークに滅ぼされる
1375年4月16日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック伯「ジョン・ヘイスティングス」
1375年4月16日 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「ジョン・ヘイスティングス」(~13891230死去)
1375年4月21日-05:30|インド| |||<死去>パフマニ朝第2代 سلطان 「ムハンマト・シャー1世」
1375年4月21日-05:30|インド| |||<即位>パフマニ朝第3代 Sultan 「アラウッディーン・ムジャヒド・シャー」(~13780416)
1375年5月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライティン代行「ジャコブ・シェーシ」(~7月)
1375年5月2日-09:00|日本| |||文中4; 永和元年4月|<任命>山城国守護(侍所頭人)「山名時義」(~同年)
1375年5月8日-09:00|日本| |||文中4; 永和元年4月7日|少貳冬資、南朝に降り、本領安堵し、探題に補する論旨を賜る
1375年5月13日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>上バイエルン公兼下バイエルン＝ランツフート公「シュテファン2世」
1375年5月13日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>下バイエルン＝ランツフート公「シュテファン3世」シュテファン2世の長男(⇒1392年上バイエルン＝インゴルシュタット公~14130926死去)、「フリードリヒ」シュテファン2世の次男(~13931204死去)、「ヨハン2世」シュテファン2世の3男(⇒

1390迄(1294件)

1392年上ハ・エルン=ミューン公~1397年死去)

- 1375年5月14日-09:00|日本|愛媛県西条市|文中4;永和元年4月13日|僧重善ら、桑村郡興隆寺本堂を再建
1375年5月31日-09:00|日本| ||永和1;天授1年5月|<任命>(南朝)征西大將軍「良成親王」(~1392年)
1375年5月31日-08:00|モンゴル| ||元・宣光5年5月|北元のアルシタウ、金山(アルタイ山脈)にうつる
1375年6月26日-09:00|日本| ||天授元;永和元年5月27日|南朝が「天授」に改元
1375年6月27日-01:00|フランス/イギリス| ||ブルージュの和約が結ばれ、フランス内のイングランド領が大幅に狭められる
1375年7月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・ガライ」(~1385年9月)
1375年7月1日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス王シャルル5世、ベルギー-北西部のブリュッヘ(ブリュージュ)でイングランド王と2年間の「休戦協定」を結ぶ
1375年7月12日-09:00|日本| ||永和1;天授1年6月13日|<任命>(南朝)日向国守護「阿蘇惟武」(~天授3・永和3(1377)年)
1375年7月14日-09:00|日本| ||永和1;天授1年6月15日|<任命>(南朝)伊予国守護「河野通堯」(⇒天授5・康暦元(1379)年7月、北朝伊予国守護~同年11月6日死去)大内を討たせることを謀る
1375年7月29日-09:00|日本| ||天授元;永和元年7月1日|日食
1375年8月-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<死去>シュレーズガッヒ公「ハフリク1世」
1375年8月-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<即位>シュレーズガッヒ公「ハフリク・ヤーン(ホルシュタイン=レンスブルク伯ハインリヒ2世)」(~1384年死去)、「クウス(ホルシュタイン=レンスブルク伯ニコラス)」弟(~1386年)共同統治
1375年8月28日-09:00|日本| ||天授元;永和元年8月|<任命>紀伊国守護「細川業秀」(~天授4・永和4(1378)年11月)
1375年9月1日-01:00|フランス| ||<死去>オルアン公「フィリップ」
1375年9月7日-09:00|日本|岡山県|天授元;永和元年8月11日|<死去>備中国守護「渋川義行」息子の満頼が継ぐ(⇒1381年半国守護~明徳4(1393)年)
1375年9月7日-09:00|日本|宮崎県|天授元;永和元年8月11日|<任命>日向国守護「島津氏久」(~不詳)
1375年9月21日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|天授元;永和元年8月25日|幕府は南朝側に離反して和泉国土丸城に立てこもった橋本正督を攻め、南朝の和泉国土丸城が陥落、城主の正督は幕府に投降
1375年9月22日-09:00|日本| ||天授元・永和元年8月26日|<死去>筑前国・対馬国守護「少貳冬資」今川了俊が陣中に招いて宴を張り、その宴中で了俊の弟仲秋により刺殺される(水島の変)
1375年9月22日-09:00|日本| ||天授元;永和元年8月26日|<任命>(南朝)筑前国守護「少貳頼澄」(~同年)
1375年9月24日-09:00|日本| ||天授元;永和元年8月28日|<任命>筑後国守護「島津氏久」(~同年)⇒「今川貞世」(~応永2(1395)年間7月)
1375年9月24日-09:00|日本| ||天授元;永和元年8月28日|<任命>筑前国守護「今川貞世」(~元中4・嘉慶元(1387)年)
1375年9月25日-09:00|日本|熊本県菊池市|天授元;永和元年8月29日|長井貞広・宇都宮経景・日田詮永、南朝と筑後国山崎城に戦い討死/後藤筑前守基清・後藤美作守基縄兄弟、今川了俊に臆病武者と侮辱され水島城を攻め落とす。今川了俊が助けず軍を引き上げた為、敵の残兵によって。後藤兄弟及び一族家臣ほとんど討死/後藤基清・後藤基縄兄弟戦死
1375年10月12日-09:00|日本| ||天授元・永和元年9月17日|<死去>花町宮邦省親王、皇族(生年1302年)
1375年10月20日-09:00|日本|和歌山県|天授元;永和元年9月25日|紀伊国で南朝軍が敗退、幕府の紀伊守護らが在田郡に攻め入り、諸城を陥落させた
1375年10月24日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「ヴァルデマル4世クリストファーセン」
1375年10月24日-01:00|デンマーク| ||<就任>デンマーク摂政「ルド・大司教ニールス・ヨンスン・ビルト」国務院議長(~13760503)
1375年11月12日-01:00|チェコ| ||<死去>モラヴィア辺境伯「ヤン・インヅフ(ヨハン・ハインリヒ)」
1375年11月12日-01:00|チェコ| ||<就任>モラヴィア辺境伯「ヨゼフ・ヤン・インヅフ」の長男(⇒1388年兼ブランデンブルク選帝侯・ルクセンブルク公⇒1410年兼対立ロマン王~14110118死去)、「フロコフ」ヤン・インヅフの息子(~14050924死去)、「ヤン・ヴィエスラフ」ヤン・インヅフの息子(~13801030退位~13941012死去)
1375年12月9日-09:00|日本|福岡県八女市|天授元;永和元年11月16日|今川了俊の兵、筑後黒木城を陥れる
1375年12月21日-01:00|イタリア| ||<死去>ボッカッチオ(誕生:1313)イタリアの詩人で人文学者、「デカメロン」の著者
1376年-05:00|モルデイグ| ||<死去>ティムケ朝スルタン「Abdullah1世 Dhammaru Aadheettha」暗殺される
1376年-05:00|モルデイグ| ||<即位>ティムケ朝「Sultana Khadijah Raadha Abaarana」(3期目~1380年)
1376年-03:30|イラン| ||<即位>サラバダース王「Rukn ad-Din」(~1379年)
1376年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アントニア・ゼーノ」(~1378年)
1376年-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「ラドゥ1世黒侯」(~1385年死去)
1376年-02:00|トルコ| ||<即位>アルタウ朝スルタン「イサー・アッ=ザ・ヒル・マジド」(~1406年)
1376年-02:00|ブルガリア/トルコ| ||ブルガリア王国がオスマン支配下にはいり、王女をムラト1世に献上
1376年-01:00|ドイツ| ||<就任>ヘッセン方伯「ヘルマン2世碩学伯」ハインリヒ2世の甥(~1413年)
1376年-01:00|アルバニア| ||デラツツォをナハラ中隊が占領(~1377年)
1376年 00:00|チャンル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Hugh Calvilegh卿」(~13930423死去)
1376年 00:00|イギリス| ||<就任>エックス伯「トマス・オブ・ウッドストック」(~13970908死去廃絶)
1376年 00:00|チャンル諸島/フランス| ||<就任>オルタニー島知事「Thomas Porteman」(~1379年)
1376年 00:00|イギリス| ||<就任>コンウォール公「リチャード」エドワード黒太子の子(~13770622リチャード2世として即位)
1376年 07:00|メキシコ| ||<即位>アステカ第1代国王アカマピチトリ(~1395年)
1376年1月18日-09:00|日本| ||天授1;永和1年12月27日|<就任>北朝関白「九条忠基」(~康暦元年8月22日)

1390迄 (1294件)

1376年1月22日-09:00|日本| ||天授2: 永和2年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「畠山基国」(~同年)
 1376年1月22日-07:00|ベトナム| ||大越・降慶4年|チャン・スエ・トン(陳蓉宗)がチャンパ 攻略
 1376年1月24日 00:00|イギリス| ||<死去>アンデル伯・サリ伯「リチャード・フィッツアラン」
 1376年1月24日 00:00|イギリス| ||<就任>アンデル伯・サリ伯「リチャード・フィッツアラン」(~13970921死去剥奪)
 1376年2月5日-09:00|日本|福岡県太宰府市|天授2: 永和2年1月15日|今川了俊・大友・大内氏率い大宰府内山少武
 越後守頼澄を攻落. 少武一族郎党7百人討死
 1376年2月19日-01:00|ポーランド| ||<死去>オソフィエンチム公「ヤン2世」
 1376年2月19日-01:00|ポーランド| ||<就任>オソフィエンチム公「ヤン3世」(~14050819死去)
 1376年3月31日-09:00|日本|兵庫県|建徳2: 応安4年3月11日|<死去>但馬国守護「山名師義」弟の時義が継ぐ(~元中
 6・康応元(1389)年5月4日死去)
 1376年4月10日-09:00|日本|鹿児島県|建徳2: 応安4年3月21日|<死去>島津師久(生年1325年/前薩摩国守護、島津
 氏の第6代当主)
 1376年5月3日-01:00|デンマーク| ||<就任>デンマーク摂政「ノルウェー王ハコン6世マグヌソン」(~13800912没)、「マルク・レー・ヴァルデ
 マルスタター」ヴァルデ・マ4世とシュレスヴィヒ公女ヘルヴィの末娘(~13870803)
 1376年5月3日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「オル2世ハコンセン」(~13870803死去16歳)
 1376年5月14日-09:00|日本| ||天授2: 永和2年4月25日|大地震。家屋倒壊多数
 1376年5月18日-09:00|日本| ||天授2: 永和2年4月29日|<交替>石見国守護「大内弘世」⇒「荒川詮頼」(~康暦元・天
 授5(1379)年閏4月14日罷免)
 1376年5月19日-09:00|日本| ||天授2・永和2年5月|<交替>伊豆国守護「上杉能憲」⇒「上杉憲方」(~応永元年10月2
 4日(13941117)死去)
 1376年5月31日-09:00|日本| ||天授2: 永和2年5月13日|<辞職>関東執事「上杉能憲」(病気のため)
 1376年6月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ラースロー・ロソチ」(~1391年12月)
 1376年6月8日 00:00|イギリス| ||<死去>コンウォール公・11代チェスター伯「エドワード・アンジュー(エドワード 黒太子)」45歳(誕生13
 300615)
 1376年6月8日 00:00|イギリス| ||<就任>12代チェスター伯「リチャード・アンジュー」先代の次男(~13770622イングリッシュ王子リチャード2
 世)
 1376年6月10日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア| ||<即位>神聖ローマ皇帝・イタリア王「ヴェンツェル」カール4世の子(~14000820
 薨位~14190816死去)
 1376年6月18日-08:00|中国| ||明・洪武9年6月|明で行中書省を改め全国に十三布政使司を置く
 1376年6月21日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「キルデア伯モリス・フィッツジェラルド」(~9. 21)
 1376年7月1日-09:00|日本|長野県大町市|永和2: 天授2年6月14日|仁科盛国、安曇郡仁科神明の社殿を造替し、是
 日、遷宮
 1376年7月4日-01:00|ドイツ| ||シュヴァーベン都市同盟が結成される
 1376年7月9日-09:00|日本| ||永和2: 天授2年6月22日|寅刻、彗星丑方に見ゆ。3尺、色白。27日戌刻、亥方に現る。1
 丈余。暁に丑方に見ゆ
 1376年7月19日-09:00|日本|大分県|天授2: 永和2年7月3日|今川了俊・大内義弘・大内盛見・大友親世、豊後に入り
 菊地武政攻める/菊地武政先鋒河尻左衛門太郎、今川に寝返り菊地を攻めるが河尻左衛門太郎・笠原・奥山・井田
 討死
 1376年7月26日-09:00|日本|熊本県八代市|天授2: 永和2年7月5日|今川満範は肥後西南部に派兵。田浦(現田浦町)
 の宮方は降参、二見(現八代市)の城を落とす
 1376年8月4日-09:00|日本|京都府久世郡久御山町|天授2: 永和2年7月19日|京都に土一揆起こり、山名時義の兵こ
 れを芋洗橋に攻めて敗れる
 1376年8月12日-02:00|トルコ| ||<即位>ニカイア帝国皇帝「アンドロニコス4世パレオロゴス」ヨハネス5世パレオロゴスとヨハネス6世カンタケ
 スの娘ヘレー・カンタケネの長男。反乱でコンスタンティノポリスに皇帝として入城し父と二人の弟を投獄して全権を掌握(~137
 90701退位~13850628死去)
 1376年8月12日-02:00|トルコ| ||<薨位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス5世パレオロゴス」(~13910216死去)
 1376年8月20日-09:00|日本|佐賀県杵島郡白石町|永和2: 天授2年閏7月5日|今川貞世の兵、肥前妻山城を落とす
 1376年9月1日-01:00|フランス| ||<死去>オルアン公「フィリップ・ド・ヴァロワ」(生年1336年)
 1376年9月6日-01:00|イタリア| ||ベネチア、ジェノヴァとの最初の衝突
 1376年9月21日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「オモント 伯ジェームズ・バトラ」(~13791013)
 1376年9月25日-09:00|日本| ||永和2: 天授2年8月12日|<交替>薩摩国守護「島津伊久」⇒「今川貞世」(~永徳2・弘
 和2(1382)年10月)
 1376年9月25日-09:00|日本| ||永和2: 天授2年8月12日|<交替>大隈国守護「島津氏久」⇒「今川貞世」(~永徳2・弘
 和2(1382)年10月)
 1376年12月10日-09:00|日本|宮崎県|天授2: 永和2年10月28日|相良・伊東両氏連合し、谷山南方・市来・渋谷・菱刈・
 牛屎・真幸・肝付・禰寝・櫛島・飢肥・伊東・土持の諸氏を従え守護に叛し、真幸・北郷・野々三谷を占領
 1377年-08:00|インドネシア| ||<即位>フルタ・スルタン「Komala Pulu」(~1432年)
 1377年-05:30|インド| ||<即位>グンジャヤガル王国(サンガマ朝) 国王「ハリハラ2世」(~1404年)
 1377年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<死去>オルタ・ウルス・ハン「Urus Khan」
 1377年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>オルタ・ウルス・ハン「Toqtaqiya」(~同年死去)
 ⇒「Timur-Malik」(~1378年死去)
 1377年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| ||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「Arab Shah Muzaffar」(~1

1390迄 (1294件)

380年)

- 1377年-04:00|ロシア| |||<復位>フスコフ公「アント・リュス・アルギル・イェイス」(~1386年)
- 1377年-03:00|イェメン| |||<死去>ラール朝スルタン「アフタール・アル・アッハス」
- 1377年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グイテフ・スク公「イウリアニヤ・アレクサント・ロヴナ」(~1393年)
- 1377年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ボロク公「スキル・イラ(イヴァン)」(~1382年)
- 1377年-03:00|イェメン| |||<即位>ラール朝スルタン「アシュラフ・イスマイル1世」(~1400年)
- 1377年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ朝(ヒスン・カイファ)アミール「Adil Fakhr ad-Din Sulayman1世」(~1424年)
- 1377年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ベルス公ウラディスワフ・ホリルチク(~1387年)
- 1377年-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「コンラト3世」(~14121228死去)
- 1377年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「ミクロシュ・シェー・デ・フェルシェンド・ウァ」(3度目~1380年)
- 1377年-01:00|セルビア| |||<即位>第2代セルビア公「ステファン・ラザレヴィチ」ステファン・ラザレヴィチの子(~1427年)
- 1377年-01:00|フランス| |||<即位>アンジュー公「ルイ2世」ナポリ国王/ルイ1世とマリー・ド・ブルゴニの息子(~14170429死去39歳)
- 1377年-01:00|アルバニア/イタリア| |||テュラツツ市がヴェネツィア共和国に割譲され、アルバニア・ヴェネツィアの一部として統治される(~13920818)
- 1377年-01:00|イタリア| |||トリエステはヴェネツィア共和国に復元
- 1377年-01:00|北マケドニア/セルビア| |||マケドニアはセルビアが統治(フリシテイのウク・フランコヴィッチ統治下のコソボの一部~13941010)
- 1377年 00:00|イギリス| |||<死去>9代マー伯「トマス」
- 1377年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ダウケルト 司教ジョン・デ・ヒールズ」(~1390年)
- 1377年 00:00|イギリス| |||<就任>ノッティンガム伯「ジョン・ド・モウブレイ」(~13830212死去)
- 1377年 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「Guichard d'Angle」(~1380年死去)
- 1377年 00:00|ヨーロッパ| |||ヨーロッパで印刷された「トランプ」が登場
- 1377年1月2日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ホンメルン=ヴァルカースト=シュトルブ公「カジミール4世」
- 1377年1月2日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ホンメルン=ヴァルカースト=シュトルブ=スタルク公「ボギスワフ8世偉大公」(~14180211死去)、「バルム5世」(~1402年死去)
- 1377年1月2日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ホンメルン=ヴァルカースト=シュトルブ公「ヴァルティスワフ7世」(~1394年死去)
- 1377年1月2日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ホンメルン=ヴァルカースト=ハース公「ヴァルティスワフ6世隻眼公」(⇒1393年ホンメルン=ヴァルカースト公~13940613死去)
- 1377年1月17日-01:00|バチカン/イタリア| |||教皇グレゴリウス11世が、教皇庁をローマに復帰させる/「教皇のバビロン捕囚」時代が終結
- 1377年1月27日-01:00|イタリア| |||<死去>フィリッポ3世
- 1377年1月27日-01:00|イタリア| |||<即位>フィリッポ王「マリア」(~14010525死去)
- 1377年2月3日-01:00|イタリア| |||<チェーナの血浴>イタリア・チェーナに教皇領軍が侵攻し市民2000人を虐殺
- 1377年2月9日-09:00|日本| ||天授3・永和3年|<交替>豊前国守護「今川了俊」⇒「大内義弘」(~応永6(1399)年12月21日死去)
- 1377年2月9日-09:00|日本| ||天授3・永和3年|<任命>伊勢・志摩国守護「山名五郎」(~康暦元・天授5(1379)年閏4月)
- 1377年2月9日-09:00|日本| ||天授3・永和3年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「山名氏清」(~同年)
- 1377年2月9日-09:00|日本| ||天授3・永和3年|<任命>相模国守護「三浦高連」(~応永9(1402)年)
- 1377年2月9日-09:00|日本|香川県綾歌郡宇多津町|永和3・天授3年|細川頼之、宇多津江(郷)照寺を再興
- 1377年2月9日-09:00|日本|長崎県壱岐市|永和3・天授3年|覚音寺[立石西触]の仏殿を造営
- 1377年2月19日 00:00|イギリス| |||ロンドン司教座聖堂でのウイクリフの査問を契機にロンドン市内で暴動が発生
- 1377年2月21日-09:00|日本|佐賀県|天授3・永和3年1月13日|<肥前蟬打合戦>今川了俊、肥前千布・蟬打の戦いで菊池武朝・阿蘇惟武ら南朝軍を撃ち破る
- 1377年3月4日-07:00|ベトナム| ||大越・昌符1年1月24日|<死去>陳朝(大越)皇帝「睿宗」チャン・王国(占城国)国王阿答阿者の親征で敗死
- 1377年3月4日-07:00|ベトナム| ||大越・昌符1年1月24日|<即位>陳朝(大越)皇帝「廃帝」(~1388年(昌符12年)捕えられる)昌符と改元(~1388年)
- 1377年3月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・宣光7年2月|高麗、北元宣光年号を始める
- 1377年3月10日-09:00|日本|宮崎県都城市|天授3・永和3年2月1日|島津氏久、満範を蓑原に撃破し、相良頼氏・伊東祐基・渋谷右馬助らを斬る
- 1377年3月11日-09:00|日本|宮崎県都城市|天授3・永和3年2月2日|島津氏久、満範と蓑原で戦い敗れる
- 1377年3月15日-02:00|エジプト/シリア/アラブ| |||<即位>ハリー朝スルタン「アル=マンズール=アラ=アド=デ=イン=アリ=イブン=アル=アシュラフ=シャハーン」(~13810519死去)
- 1377年3月27日-09:00|日本|京都府京都市|天授3・永和3年2月18日|京都火災、北小路室町付近で出火、柳原第(持明院室町)、仙洞御所、花御所(崇光院御所)、菊亭(北小路柳ヶ辻)、御霊社など焼亡
- 1377年4月9日-09:00|日本|宮崎県都城市|天授3・永和3年3月1日|日向都城北郷誼久、島津久氏の財部に至るを聞き、今川満範を攻めて敗れる/島津久氏、北郷誼久を助け、今川満範を蓑原に破り、相良頼氏・伊東祐基・渋谷右馬助討死
- 1377年4月10日-09:00|日本|宮崎県都城市|天授3・永和3年3月2日|島津久氏、今川満範を蓑原に攻め敗れ、本田重親討死
- 1377年4月13日-01:00|フランス| |||<死去>ギヨーム・ド・マシヨ(生年1300年頃/フランスの作曲家、詩人)

1390迄 (1294件)

1377年4月13日-09:00|日本|福島県会津若松市|天授3; 永和3年3月5日|会津実成寺両尊造立
 1377年5月2日-02:00|リトニア/ヘラルシ|||<死去>リトニア大公・ヴァイブス公「アルギルス」
 1377年5月2日-02:00|リトニア|||<即位>リトニア大公「シヨグイ」アルギルスの子(1回目~13810810、ケストウティスに退位させられる)、「ケストウティス」(2回目~13820803、シヨグイに捕われ、殺害された)
 1377年5月2日 00:00|イギリス|||<死去>デヴォン伯「Hugh de Courtenay」
 1377年5月2日 00:00|イギリス|||<就任>デヴォン伯「Edward de Courtenay」The Blind”(~14191205死去)
 1377年5月16日-09:00|日本|||永和3・天授3年4月9日|<死去>承胤法親王、法親王(生年1317年)
 1377年5月21日-01:00|ドイツ|||シュヴァーベン都市同盟が、カル4世軍を破る(ロイトリンゲンの戦い)
 1377年5月24日-09:00|日本|||天授3; 永和3年4月17日|<任命>関東管領「上杉憲春(山内)」(~天授5・康暦元(1379)年3月7日死去)
 1377年6月7日-09:00|韓国/朝鮮|||高麗・宣光7年5月|李成桂、智異山で倭寇を撃破
 1377年6月21日 00:00|イギリス/フランス|||<死去>イングランド王「エドワード3世」兼アキテーヌ公「エドワード3世」64歳(誕生13121113)ガーター勲章を制定した
 1377年6月22日 00:00|イギリス/フランス|||<即位>イングランド王「リチャード2世」エドワード黒太子とジョーン・オブ・ケントの男子(~1390929退位~14000214死去33歳)兼アキテーヌ公「リチャード2世」(~1390年)
 1377年7月6日-09:00|日本|富山県|天授3; 永和3年6月|越中の守護代が国人と争い細川頼之の所領を焼き払う
 1377年7月6日-09:00|日本|京都府京都市南区|天授3; 永和3年6月1日|京都の吉祥院が焼失
 1377年7月6日-09:00|日本|福岡県筑紫野市|天授3; 永和3年6月1日|筑前国安楽寺が炎上
 1377年7月15日-09:00|日本|熊本県山鹿市|天授3; 永和3年6月10日|今川義範、肥後に入り志々木原に陣す/菊池武朝、これと戦い大いに破り、進んで大津山関に陣す
 1377年7月16日 00:00|イギリス|||<就任>ノーサンハンプトン伯「ヘンリー・パーシー」(~1405年私権剥奪)
 1377年7月17日 00:00|イギリス|||イングランドで、国王が未成年のため評議会による統治が始まる
 1377年7月27日-01:00|イタリア/ギリシャ|||<死去>シチリア王「フィリップ3世」兼アテネ公「フィリップ2世」
 1377年7月27日-01:00|イタリア/ギリシャ|||<即位>シチリア王「マリヤ」フィリップ3世の妻(~1401年)兼アテネ公(~1388年)
 1377年9月10日-09:00|日本|京都府京都市|天授3; 永和3年8月7日|綾小路富小路より失火、京極-猪熊、四条-六条坊門間延焼
 1377年9月15日-09:00|日本|熊本県玉名郡南関町|天授3; 永和3年8月12日|今川了俊・大内義弘、菊地武朝との肥後国臼間野・大水山関の戦いで、植田宮・菊地武義・菊地武安・阿蘇惟武ら百人討取る
 1377年9月28日-09:00|日本|熊本県菊池市|天授3; 永和3年8月25日|菊地武興、今川仲秋・大内・毛利軍と合志郡板井原に戦い隈本に走らす
 1377年10月3日-09:00|日本|||天授3; 永和3年9月|<交替>近江国守護「京極高詮」解任⇒「六角満高」(~応永17(1411)年12月21日解任)
 1377年10月3日-09:00|日本/韓国/朝鮮|||天授3; 永和3年9月|高麗の使節・鄭夢周が来朝し、倭寇禁圧を請う
 1377年10月3日-09:00|日本|鹿児島県|天授3; 永和3年9月|島津氏久・伊久が北朝へ降伏
 1377年10月3日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|天授3; 永和3年9月|本田氏親、大隅姫木・清水両城の北党を攻落
 1377年10月12日-09:00|日本|京都府京都市|天授3; 永和3年9月10日|<死去>南朝の皇族・興良親王(後醍醐天皇の孫)、京に於いて/41歳
 1377年10月24日-02:00|キプロス|||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ファン・フェルナンデス・デ・エリディア」(~1396年没)
 1377年10月26日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ|||<即位>ボスニア王「ステパン・トゥルトコ1世」(~13910310)
 1377年10月26日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ|||ボスニア王国、ハンガリーから独立
 1377年11月2日-09:00|韓国/朝鮮|||高麗・宣光7年10月|高麗の崔茂宣が火薬の製造に成功(火桶都監)
 1377年12月2日-09:00|日本|||天授3; 永和3年11月1日|日食
 1377年12月3日-09:00|日本|和歌山県|天授3; 永和3年11月2日|橋本正督は再び北朝から寝返って紀伊国で蜂起し、細川頼之の親族細川業秀を攻めた
 1377年12月18日-09:00|日本|和歌山県|天授3; 永和3年11月17日|橋本正督は細川頼基らと戦ったが敗退、夜には撤退
 1377年12月30日-09:00|日本|京都府京都市|天授3; 永和3年11月29日|臨川寺火災
 1378年-05:30|インド|||<即位>東ガング朝国王「ナランハ・デーヴァ4世」(~1424年)
 1378年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン|||<死去>オルタ・ウルス・ハン「Timur-Malik」
 1378年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン|||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「Tokhtamysh Khan」(~1397年)
 1378年-04:00|ロシア|||<即位>フロンスク公「イヴァン・ウラジミロヴィチ」(~1430年)
 1378年-04:00|ロシア|||クリコヴォの戦いでモスク侯がキプチャク・ハン国を破る
 1378年-03:30|イラン|||<即位>ハザーラス朝君主「Malik Pir Ahmad」(~1408年)
 1378年-03:30|イラン|||<即位>パダスパニド朝君主「Azod al-Dawla Qobad」(~1379年)
 1378年-03:00|イラク/イラン/アゼルバイジャン/トルコ|||<即位>黒羊朝スルターン「カラ・ムハンマド」(~1388年)
 1378年-03:00|サウジアラビア|||<即位>メッカ・シャリフ「ムハンマド・ブン・アフマド・ブン・アジュラン」共同統治(~13861224)
 1378年-02:00|ギリシャ/イタリア|||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アントニア・ダンドロ」(~1381年)
 1378年-02:00|トルコ/イラン|||<即位>白羊朝スルターン「カラ・ユルク・オスマン」建国(~1435年)
 1378年-02:00|トルコ|||<即位>ラマタニス・ハン「Ibrahim・ベイ」(~1383年)
 1378年-02:00|ルワンダ|||<即位>ルワンダ王国ムミ「キグリ1世ムコバンヤ」(~1418年)
 1378年-01:00|ドイツ|||<就任>フェルデツ伯「Frederick2世」(~1396年)、「Henry3世」(~1389年)

1390迄 (1294件)

1378年-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェッラート侯「ジヨヴァンニ3世」(~1381年)
1378年-01:00|ポーランド| |||<就任>ラチフシュ公「ジョン2世」(~1424年死去)
1378年-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア王「ヴェンチスラオ1世」神聖ローマ皇帝、カル4世の次男(~1410年)
1378年-01:00|イタリア| |||フィレンツェで羊毛工業の職工(フォビ)が反乱
1378年 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島副守護者「Henri Rider」(~1382年)
1378年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「フカル・ゾンコ」(~1386年)
1378年1月11日-09:00|日本| ||天授3; 永和3年12月12日|幕府が、大山崎神人の要請により堺の住民が荏胡麻の
売買をすることを停止
1378年1月12日-09:00|日本|愛知県知立市|天授3; 永和3年12月13日|三河国知立宮の社殿建立
1378年1月13日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<死去>ゼータ・リトラル卿「ジュージ1世バルツ」
1378年1月30日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年|<引退>越後国守護「上杉憲栄」
1378年1月30日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年|<任命>香岐国守護「今川貞世」(~応永2(1395)年閏7月解任)
1378年1月30日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「今川泰範」(~同年11月)
1378年1月30日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年|<任命>対馬国守護「宗澄茂」(~明徳3・元中9(1392)年3月)
1378年1月30日-09:00|日本|京都府京都市北区|天授4; 永和4年|京都妙覚寺できる
1378年1月30日-09:00|日本|静岡県静岡市葵区|天授4; 永和4年|京都妙顕寺3世朗源、妙祐山宗林寺(沓谷)開基
1378年1月30日-09:00|日本|和歌山県日高郡日高町|天授4; 永和4年|紀伊国道成寺本堂できる
1378年1月30日-08:00|中国/モンゴル| |||明が興安嶺の東部にウランハイ三衛を設置
1378年2月6日-01:00|フランス| |||<死去>ジャンヌ・ド・ブルボン(生年1338年、フランス王シャルル5世の王妃)
1378年2月18日-09:00|日本|和歌山県|天授4; 永和4年1月20日|紀伊の南軍が守護細川氏春を淡路に追う
1378年3月6日-01:00|イタリア/スペイン| |||ベネチア、ジェノヴァに対して、アラゴンのパトリオ4世とバルボ・ダ・イスクンティと協約
1378年3月27日-01:00|パチカン| |||<死去>第201代ローマ教皇「グレゴリウス11世」[1329年生~](享年49)
1378年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ルカ・ディ・ノ・ディ・ベッラルト」「シモーネ・ディ・ベッラルツォ」
1378年4月5日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年3月8日|<死去>救済/95歳/連歌師「菟玖波集」
1378年4月7日-09:00|日本|京都府京都市上京区|天授4; 永和4年3月10日|足利義満が京都・室町に造営した室町殿
(花の御所)に幕府を移転
1378年4月8日-01:00|パチカン| |||<就任>第202代ローマ教皇「ウルバヌス6世」(~13891015死去)
1378年4月16日-05:30|イント| |||<即位>パフニー朝第4代スルタン「ターウト・シャー1世」(~5. 22)
1378年5月10日-08:00|モンゴル| ||元・宣光8年4月13日|<死去>モンゴル帝国(北元)皇帝「アルシタラ(ビリクトゥカガン/昭宗
)」
1378年5月13日-08:00|モンゴル| ||元・宣光8年4月16日|<死去>モンゴル帝国(北元)皇帝「トグス・テムル」(~13881101没)
1378年5月14日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年4月17日|<死去>関東管領・武蔵国守護・伊豆国守護「上杉能憲」
1378年5月14日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年4月17日|<任命>関東管領・武蔵国守護「上杉憲春」能憲の弟(~康暦
1年3月7日(13790325)死去)
1378年5月21日-05:30|イント| |||<即位>パフニー朝第5代スルタン「ムハンマド・シャー2世」(~13970420)
1378年5月30日-01:00|イタリア/スペイン| |||カーボ・ダンツィオの戦い、ヴェネチア側に有利
1378年6月17日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドーージェ「アントニオ1世アトルノ」(1期目~同日)⇒「ニコ・ガルド」(~1
3830407)
1378年6月25日-07:00|ベトナム| ||大越・昌符2年6月|チャンパ軍がベトナムの昇龍へ侵入
1378年6月26日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||天授4; 永和4年6月|今川了俊の使僧信弘、軍兵69人率い、高麗に渡り
倭寇討伐
1378年7月1日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「アルケルのヨハネ」
1378年7月1日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「アールド・オブ・ホーン」(~1389年)
1378年8月4日-01:00|イタリア| |||<死去>ミラノ・シニョレ「ガレアツォ2世・ダ・イスクンティ」
1378年9月8日-09:00|日本|熊本県菊池市|天授4; 永和4年8月16日|南軍、今川軍と肥後上長田に戦い敗れる
1378年9月20日-01:00|パチカン| |||<就任>アグニオン対立教皇「クレメン7世(ロベルト・ディ・ジェノヴァ)」(~13940916)
1378年9月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・洪武10年9月|高麗、洪武年号に戻す
1378年9月30日-09:00|日本| ||天授4; 永和4年9月8日|彗星現れる
1378年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コッツィオ・ディ・ムッチョリノ」「オンデデオ・ディ・トソ」
1378年10月10日-09:00|日本|熊本県熊本市中央区|天授4; 永和4年9月18日|今川了俊、肥後に入り、隈本の藤崎に
陣す/大内義弘・盛見兄弟、藤崎城大屋野某を攻めて敗れる
1378年10月21日-09:00|日本|熊本県熊本市|天授4; 永和4年9月29日|菊池武朝、今川貞世と肥後国託摩原で戦い敗
れるが、征西将軍良成親王が貞世を撃破
1378年11月18日-09:00|日本|福岡県久留米市|天授4; 永和4年10月28日|探題今川了俊は子息義範に上・下松浦党
を付けて耳納山に拠る宮方を攻撃/佐志祝は戦死し探題は敗れている
1378年11月21日-09:00|日本| ||天授4・永和4年11月|<任命>山城国守護(侍所頭人)「山名義幸」(~1379年)
1378年11月22日-09:00|日本|和歌山県|天授4; 永和4年11月2日|南朝橋本正督、紀伊国で挙兵し細川業秀を攻撃し
、ついで細川頼基と戦い敗走
1378年11月29日-01:00|トイ/チェコ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<死去>神聖ローマ皇帝・イタリア王・ブルグント王「カル4世」兼ボヘ
ミア王「カレル1世」62歳(誕生13160514)
1378年11月29日-01:00|トイ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク選帝侯「ジギスムント」ヴェンツェルの異母弟(~1388年従弟
のヨブストに譲位)

1390迄 (1294件)

1378年11月29日-01:00|チェコ| |||<即位>ボヘミア王「ヴァツラフ4世」ローマ王、ブランデンブルク選帝侯、ルクセンブルク公 (~14190816 死去)

1378年11月29日-01:00|ドイツ/ボヘミア| |||<退位>ブランデンブルク選帝侯「グエンツェル」

1378年12月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|天授4: 永和4年11月18日|鎌倉円覚寺仏殿でできる

1378年12月16日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェラート侯「ジョヴァンニ3世」ジョヴァンニ2世の次男 (~13810825)

1378年12月18日-01:00|バチカン/フランス| |||フランス王シャルル5世、「フルターニョ公」ジャン4世の忠誠義務違反を断罪し「フルターニョ公領」を没収

1378年12月21日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|天授4: 永和4年12月|足利義満、細川頼之・山名氏清・山名義理をつかわし和田正武の守る土丸城落とす

1379年-05:30|インド| |||<即位>サマ朝スルタン「Jam Salahuddin」 (~1389年)

1379年-03:30|イラン| |||<即位>ハダスパニド朝君主「Marashiyān occupation」 (~1391年)

1379年-03:30|イラン| |||<復位>サラハダース王「Khawaja 'Ali-yi Mu'ayyad ibn Masud」 (~1386年死去)

1379年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公(シリア王)「アラクソス王ペトリオ4世」(共同統治~13870106死去)

1379年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルデルン公「ウィレム1世(ウィレム1世)」 (~14020216死去) ユーリ公(3世)

1379年-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公「レオポルト」 (~13860709死去)

1379年-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク公「ハインリヒ3世」アルブレヒト2世の息子 (~1383年)、「マクヌス1世」アルブレヒト2世の息子 (~1384年) 共同統治

1379年-01:00|オーストリア| |||<領土分割>下オーストリア公(ハプスブルク家アルブレヒト系)「アルブレヒト3世」 (~13950829死去45歳)、オーストリア公(ハプスブルク家レオポルト系)「レオポルト3世」 (~13860709死去34歳)

1379年1月2日-09:00|日本|和歌山県|天授4: 永和4年12月13日|南朝軍橋本正督、紀伊国で細川頼元を攻めて淡路国へ走らせる

1379年1月9日-09:00|日本| ||天授4: 永和4年12月20日|<交替>紀伊国守護「細川業秀」⇒「山名義理」 (~明徳3・元中9(1392)年正月、没収)

1379年1月9日-09:00|日本| ||天授4: 永和4年12月20日|<交替>和泉国守護「楠木正儀」⇒「山名氏清」 (~明徳3・元中9(1392)年正月、没収)

1379年1月19日-09:00|日本| ||天授5・永和5年|<任命>三河国守護「一色範光」 (~元中5・嘉慶2年1月25日(13880304) 死去)

1379年1月19日-08:00|モンゴル| ||元・天元1年|北元のトグステムルの治世が天元と改元 (~1387年)

1379年2月10日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|天授5: 永和5年1月23日|足利義満の将、山名義理・氏清ら橋本正督が抛る土丸城を攻略

1379年2月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>メクレンブルク=シュヴェリーン公「アルブレヒト2世偉大公」

1379年2月18日-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク=シュヴェリーン公「ハインリヒ3世」アルブレヒト2世の息子 (~13830424死去)

1379年2月26日-09:00|日本|和歌山県有田郡湯浅町|天授5: 永和5年2月9日|山名義理、氏清、時義が紀州有田軍藤浪に打入、湯浅城を攻略

1379年2月28日-09:00|日本|和歌山県有田郡有田川町|天授5: 永和5年2月11日|山名義理等、石垣城を陥れる

1379年3月19日-09:00|日本|宮崎県都城市|天授5: 永和5年3月1日|<養原の合戦>都之城の西方の本の原で今川満範、島津氏久両軍激突/島津軍は義久の弟基忠・忠宣と本田重親が戦死したが、満範軍も相良頼氏(前頼の弟)・伊東祐基・渋谷久清(祁答院氏)らの大將が戦死して、合戦は満範軍の大敗(3日、再度合戦後、満範は都之城から下財部方面に退いた)

1379年3月25日-09:00|日本| ||天授5: 永和5年3月7日|<死去>関東管領・武蔵国守護・上野国守護「上杉憲春(山内)」関東公方足利氏満に謀反を思いとどまる手紙を書き切腹

1379年4月9日-09:00|日本| ||天授5: 康暦元年3月22日|北朝が「康暦」に改元

1379年5月1日-09:00|日本| ||天授5: 康暦元年4月15日|<任命>関東管領「上杉憲方(山内)」 (~永徳2(1382)年1月16日退任)

1379年5月1日-09:00|日本| ||天授5: 康暦元年4月15日|<任命>武蔵国守護・上野国守護「上杉憲方(山内)」 (~応永元年10月24日(13941117) 死去)

1379年5月7日-01:00|イタリア| |||ブリオニの戦い、ヴェネツィア人敗北

1379年5月29日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティーリャ国王「エンリケ2世庶子王」

1379年5月29日-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王・カスティーリャ国王「ファン1世」 (~13901009死去)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<解任>管領・伊予国守護・讃岐国守護・土佐国守護「細川頼之」足利義満により罷免<康暦の政変>頼之は自邸を焼いて一族を連れて領国の四国へ落ち、その途上で出家

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>阿波国守護「細川頼有」⇒「細川政氏」 (~天授7・康暦3(1381)年4月)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>伊勢・志摩国守護「山名時理」⇒「土岐頼康」 (~嘉慶元・元中4(1387)年12月25日死去)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>出雲・隠岐国守護「京極高秀」失脚⇒「山名義幸」 (~弘和元・永徳元(1381)年隠居)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>石見国守護「荒川詮頼」罷免⇒「大内義弘」 (~応永6年12月21日(14000117) 死去)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>摂津国守護「細川頼元」⇒「渋谷満頼」 (~永徳2・弘和2(1382)年)

1390迄 (1294件)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>能登国守護「吉見氏頼」⇒「本庄宗成」(~元中6・嘉慶3(1389)年正月死去)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<交替>飛騨国守護「京極高秀」解任⇒「京極高詮」(~天授7・康暦3(1381)年)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<任命>伊予国守護「河野通直」(~11月6日(1379)1223)死去)

1379年5月30日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月14日|<任命>讃岐・土佐国守護「細川頼元」(~弘和3・永徳3(1383)年)

1379年6月-01:00|フランス/パチカン| ||クレメン7世が、教皇庁をアヴィニョンに設置

1379年6月13日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年閏4月28日|<任命>室町幕府管領「斯波義将」(~明徳2(1391)年3月12日)/細川派宿老の勢力削減に着手、今川了俊・畠山基国らに迫って分国を削減する

1379年7月1日-02:00|トルコ| ||<退位>コナイ帝国皇帝「アト・ロコス4世パ・レロ・ス」(~13850628死去)

1379年7月1日-02:00|トルコ| ||<復位>コナイ帝国皇帝「ヨハネス5世パ・レロ・ス」が「エネツィア共和国」とムト1世の援助を受け(~13900414退位~13910216死去)

1379年8月6日-01:00|イタリヤ| ||四十七隻のジェノヴァ・ガレー船、キッジャを占領

1379年8月13日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||天授5・康暦元年7月|今川了俊54歳、倭寇に捕らえられていた朝鮮人230人返還

1379年8月13日-09:00|韓国/日本| ||高麗・洪武11年7月|倭寇が鬱陵島を侵犯し15日間も滞留し島民を殺戮したり財物を略奪

1379年8月20日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年7月8日|<任命>伊予国守護「河野通直」(~同年11月6日(12.23)死去)

1379年9月12日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年8月|<交替>備後国守護「今川了俊」⇒「山名時義」(~元中6・康応元年5月4日(1389)0529)死去)

1379年9月15日-09:00|日本|熊本県|天授5・康暦元年8月4日|菊池武朝の兵、今川仲秋を高満鬼羽山に防ぎ敗走。ついで団山陥る/菊池武朝・赤星某、これを防ぐ

1379年9月27日-09:00|日本|熊本県|天授5・康暦元年8月16日|今川仲秋、平尾城を陥れる。また橘公次を遣わして竹迫城を陥れ、小野崎・林原を占領する

1379年10月6日-09:00|日本| ||天授5・康暦1年8月25日|<就任>(北朝)関白「二条師嗣」(~永徳2年4月11日)

1379年10月13日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「オッソリー司教アレクサンドル・デ・パルスコット」(~12月)

1379年10月15日-09:00|日本|熊本県山鹿市|天授5・康暦元年9月5日|今川仲秋の兵、菊池軍に城野に撃退される

1379年10月16日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年9月6日|<交替>肥後国守護「今川了俊」⇒<再任>「(阿蘇大宮司)阿蘇惟村」(~同年)

1379年10月21日-09:00|日本|京都府京都市山科区|天授5・康暦元年9月11日|歓喜光寺焼亡

1379年10月28日-09:00|日本|京都府京都市中京区|天授5・康暦元年9月18日|六条念仏堂焼亡

1379年11月15日-01:00|ドイツ| ||<死去>「グランデング」ル選帝侯「オット5世」(生年1340年)

1379年11月21日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年10月12日|<死去>越前国守護「畠山義深」基国が就任(~天授6・康暦2(1380)年7月)

1379年12月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「シ・ョント・ブ・ロムウィッチ卿」(~1380年5月)

1379年12月15日-09:00|日本| ||天授5・康暦元年11月6日|<死去>伊予国守護「河野通直」細川頼之と伊予国佐志久原で戦い敗死/通義が継ぐ(~応永元(1394)年8月隠居)

1380年-08:00|インドネシア| ||「シュリー・ガイジャ」王国(スマタ島の「パレンバン」を中心に栄えた通商国家)「パレンバン」は独立を企てて失敗、マジャパヒト王国に滅ぼされた/シュリー・ガイジャ王権は自然消滅

1380年-08:00|フィリピン| ||フィリピンのスール諸島に、イスラム勢力が拠点を構築

1380年-05:30|スリランカ| ||<即位>ジャナ王国国王「Jeyaveera Cinkaiariyan」(~1410年死去)

1380年-05:30|インド| ||「ゴアとコンカン」地方が「ガイジャナガル」王国に併合される

1380年-05:00|モルデイグ| ||<即位>ティームゲ朝スルタン「Sultana Raadhafathi Suvama Abaarana」(~同年)⇒「Mohamed1世 Sundhura Abaarana」Raadhafathiの夫(~1385年)

1380年-04:00|ロシア| ||<即位>金帳汗国汗「トクタмыш」ト・ホジヤの子(~1395年)キプチャク・ハン国を統一

1380年-04:00|ロシア| ||<即位>第6代「ベロゼ・ロ公」ユリー・ウ・アシリウ・イチ」ロマンの孫

1380年-02:00|トルコ| ||<即位>テケ侯国ベイ「Osman Celebi」(~1391年)

1380年-02:00|ウクライナ| ||<即位>「ガゴロト・セウエルスキー公」カリブ・タス・アル・ル・ティス」(~1393年)

1380年-02:00|ギリシャ| ||<即位>モリス専制公代行「マテオ・カンタ・グ・ノス」(~1383年)

1380年-01:00|ドイツ| ||<死去>「スポンハイム・クロイツ」ハ伯「Walram」

1380年-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||<就任>「クロアチアとダルマチア」ハン「エメリック1世ベ・ベク」(~1383年)

1380年-01:00|ドイツ| ||<就任>「スポンハイム・クロイツ」ハ伯「Simon3世」(~1414年)

1380年-01:00|ドイツ| ||<昇格>「ヘルル」伯「ウ・イルヘルム7世」⇒「ヘルル」公(~1408)0625死去)

1380年-01:00|ベルギー| ||<即位>「ヘルル」公「ウ・イルヘルム2世」(~1408年)

1380年-01:00|ドイツ| ||ドイツで「大ラウ・ヴェンク」商事会社が設立

1380年-01:00|アルバニア| ||「ブ・トリント」を「バウ」中隊が占領(~1382年)

1380年 00:00|イギリス| ||<死去>「ハンティントン」伯「Guichard d'Angle」

1380年 00:00|イギリス| ||「ソールズベリー」大時計が完成、現存で世界最古の機械時計

1380年1月4日-01:00|イタリヤ| ||「ベネツィア」で絹織物、金糸使用生地職人の出国禁止

1390迄 (1294件)

1380年1月9日-09:00|日本| ||天授5:康暦1年12月|<再任>遠江国守護「今川範国」(~元中元・至徳元年5月19日(13840608)死去)

1380年1月12日-09:00|日本|京都府京都市南区|天授5:康暦元年12月4日|東寺御影堂・不動堂など焼失

1380年2月7日-09:00|日本| ||天授6・康暦2年|<再任>肥後国守護「今川貞世」(~応永2(1395)年閏7月)

1380年2月7日-09:00|日本| ||天授6・康暦2年|<任命>越後国守護「上杉房方」(~応永28(1421)年11月10日死去)

1380年2月7日-09:00|日本| ||天授6:康暦2年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「土岐詮直」(~同年)

1380年2月7日-09:00|日本|静岡県掛川市|天授6:康暦2年|小笠神社社殿を留左衛門が建立

1380年2月12日-08:00|中国| ||明・洪武13年1月6日|明の丞相の胡惟庸の謀叛計画が発覚し洪武帝により処刑され1万5千人が連座

1380年2月13日-01:00|イタリア| ||ベネチアがプロントを奪回

1380年3月 00:00|チャンネル諸島/フランス| ||<就任>ジャージー-島フランス司令官「ジャン・ド・グアイヌ提督」(~1382年)

1380年3月 00:00|チャンネル諸島/フランス| ||<就任>ジャージー-島フランス知事「Jean 5世 d'Hangest et d'Avesnecourt」(~1382年)

1380年3月 00:00|チャンネル諸島/フランス| ||ジャージーをフランスが占領(~1382年)

1380年3月28日 00:00|ヨーロッパ| ||欧州に火薬伝来/以後の戦争技術が激変

1380年4月6日-09:00|日本|沖縄県|天授6・康暦2年3月|汪英紫、島添大里グスクを攻め取り、島添大里按司になる/島添大里グスクを大規模に改築

1380年4月10日-02:00|ギリシャ| ||<死去>モリス専制公領初代統治者「マヌイル・カンタクゼノス」(生年1326年)

1380年5月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副王「マーチ伯エドマンド・モティマー」(~13811226没)

1380年5月5日-09:00|日本|沖縄県|天授6・康暦2年4月|馬天浜のサギ-大主の息子が佐敷にグスクを築いて、佐敷按司となる

1380年5月20日-09:00|日本| ||天授6・康暦2年4月16日|<任命>伊予国守護「河野通能」(~応永元年11月16日(13941209)死去)

1380年5月27日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|天授6:康暦2年4月23日|<補作>法隆寺護摩堂の不動三尊の狩羯羅・制多迦の二童子(舜慶)

1380年6月1日-09:00|日本| ||天授6:康暦2年4月28日|今川了俊、「下草」著す

1380年6月10日-01:00|フランス/アイルランド/イギリス| ||イングランド 艦隊が、アイルランド 沖でフランス艦隊を撃破

1380年6月19日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|天授6:康暦2年5月16日|<死去>下野国守護「宇都宮基綱」(生年1350年)小山義政が南朝方に応じ下野国袋原で戦い斬られる

1380年6月22日-01:00|イタリア| ||ジェノヴァが、キオッジャの戦いでヴェネチアに完敗

1380年6月26日-01:00|イタリア| ||トリエステをジェノヴァ共和国が占領(~1381年)

1380年7月1日-09:00|日本|広島県|天授6:康暦2年5月28日|大内義弘、弟満弘と安芸国内郡で合戦。芸州大将讃井山城守ら待200余人が討死

1380年7月6日-09:00|日本| ||天授6:康暦2年6月4日|妙蓮寺五世日眼が「五人所破抄見聞」を著す

1380年7月26日-09:00|日本| ||天授6:康暦2年6月24日|<死去>光明天皇/60歳(誕生:元亨1(1321)1223)北朝第2代天皇

1380年7月29日-01:00|デンマーク/ノルウェー| ||<即位>デンマーク・ノルウェー連合国王「オラウ 4世ハコンソン」(~13870803死去)、「マルグレーテ1世」(摂政、事実上の女王)(~14121028死去)/デンマーク・ノルウェー連合王国成立(~1814年)

1380年8月1日-09:00|日本| ||天授6・康暦2年7月|<交替>越前国守護「畠山基国」⇒「斯波義将」(~応永5(1398)年閏4月23日引退)

1380年8月1日-09:00|日本| ||天授6・康暦2年7月|<交替>越中国守護「斯波義将」⇒「畠山基国」(~応永13(1406)年1月17日死去)

1380年8月17日-09:00|日本|大阪府|天授6:康暦2年7月17日|橋本正督、和泉国守護・山名氏清と戦い敗死

1380年9月8日-04:00|ロシア| ||クリコフの戦い。モスクワ大公ドミトリ・トンスコイが指揮するロシア諸公軍とキプチャク・ハン国の軍とが激突。モスクワが初めて勝利

1380年9月11日-01:00|スウェーデン| ||<死去>スウェーデン王国国王「ホーコン6世」40才

1380年9月11日-01:00|ノルウェー| ||<死去>ノルウェー王「ハーコン6世マグナッソン若王」

1380年9月12日-01:00|ノルウェー/デンマーク| ||<即位>ノルウェー王「オラウ 4世ハコンソン」デンマーク王(~13870803没)

1380年9月12日-01:00|ノルウェー/アイルランド/デンマーク/グリーンランド/フェロ-諸島| ||ノルウェー(およびグリーンランド、フェロ-諸島を含む)、アイルランドに対するデンマークの支配が始まる(~18140207)

1380年9月16日-01:00|フランス| ||<死去>フランス王「シャルル5世賢明王」42歳(誕生13380121)食中毒により「ボテ=シュル=マルヌ城」で

1380年9月16日-01:00|フランス| ||<即位>フランス国王「シャルル6世親愛王(狂気王)」シャルル5世の息子(~14221021)

1380年9月22日-09:00|日本|和歌山県|天授6:康暦2年8月23日|紀伊国の南朝方須田一族ら山名氏清に敗れ潰散

1380年9月24日-09:00|日本|熊本県|天授6:康暦2年8月25日|今川仲秋、肥後坂井原に陣し、宗像城を陥れる

1380年9月29日-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<死去>ミフバノド 朝マリク「Izz al-Din ibn Rukn al-Din Mahmud」

1380年9月29日-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<即位>ミフバノド 朝マリク「Qutb al-Din ibn 'Izz al-Din」(~1383.11)

1380年9月29日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||高麗・洪武12年9月|高麗の武人李成桂、倭寇の首領アキハツ(阿只拔都)の軍を雲峰で撃退(荒山戦闘)

1380年10月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「パオ・デ・イ・チェッコロ」「ハルトリー・ノ・デ・イ・アントニオ」

1380年10月5日-09:00|日本|和歌山県橋本市|天授6:康暦2年9月7日|山名氏清、紀伊国の南朝方を攻め生地城を陥れる

1390迄 (1294件)

1380年10月29日-09:00|日本|沖縄県|天授6・康暦2年10月|汪英紫、甥の島尻大里按司(承察度)、明に進貢して、琉球山南王となる

1380年10月30日-01:00|チェコ| |||<退任>モラヴ・イェン境界伯「ヤン・ツビエスラフ」(~13941012死去)

1380年10月30日-09:00|日本|鹿児島県鹿屋市|天授6; 康暦2年10月2日|禰寝久清、島津方の大隅鷹栖城を落とす

1380年12月10日-09:00|日本|京都府京都市南区|天授6; 康暦2年11月13日|<再建>東寺西院大師堂

1380年12月12日-09:00|日本|山口県|天授6・康暦2年11月15日|<死去>周防国守護「大内弘世」義弘が継ぐ(~応永6年12月21日(1400117)死去)

1380年12月28日-09:00|日本| ||天授6; 康暦2年12月|<交替>伊賀国守護「中条秀長」⇒「仁木国行」(~永享5(1433)年4月)

1380年12月29日-01:00|ハンガリー| |||<死去>エルジベ・エタ・ウオキェトクナ(生年1305年、ハンガリー王カーロイ1世の3番目の妃)

1381年-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||ティムールがホラサンなどへ最初の遠征、サルバダル政権を滅ぼす

1381年-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「コーティエ4世・ダンギヤン」

1381年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ピエトロ・モチェニコ」(~1383年)

1381年-02:00|ギリシャ| |||<譲位>テッサリア皇帝「ヨウ・アン・ウロシュ・パレオロガス」

1381年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「ジャック・デ・ボー」(~1383年)

1381年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「ルイ・ダンギヤン」イザベル・ト・ブリエヌの息子(~13940317死去)アルゴスとナフプリオを支配

1381年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア副帝「アレクシオス・アンゲロス・フィラントポノス」(~1389. 12死去)

1381年-01:00|フランス| |||<死去>ブワロ伯「John2世」

1381年-01:00|イタリア| |||<就任>カラリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「ルイ・ジ」ジョウ・アンナ1世の養子. アソージュ・公ルイ1世(~1382年)

1381年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「イシュタヴァン・ラックフィ」(~1385年)

1381年-01:00|フランス| |||<就任>ブワロ伯「Guy2世」(~13971222死去)

1381年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=レンスブルク伯「アルブレヒト2世」, 「ゲルハルト6世」(~1404年)ニコラスと共同統治

1381年-01:00|スペイン| |||<就任>リャゴルザ伯「Alfonso of Aragon and Foix」(~1412年)

1381年 00:00|ポルトガル| |||<就任>パルメロス公「Joao Afonso Telo」(~13850814)

1381年 00:00|ポルトガル| |||ポルトガル王フェルナント1世が再びカスティリアに戦いを仕掛けたが再び失敗

1381年1月8日-09:00|日本|京都府京都市左京区|天授6; 康暦2年12月12日|天龍寺火災/公文書などが焼ける

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<隠居>丹後・出雲・隠岐国守護「山名義幸」

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<交替>飛騨国守護「京極高詮」⇒<再任>「京極高秀」(~元中8・明德2年10月11日(13911107)死去)

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<任命>隠岐国守護「山名時義」(~元中6・嘉慶3(1389)年5月4日)

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<任命>佐渡国守護「畠山国熙」(~不詳)

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<任命>山城国守護(侍所頭人)「一色詮範」(~1383年)

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<任命>丹後・出雲国守護「山名満幸」(~元中8・明德2(1391)年11月8日解任)

1381年1月26日-09:00|日本| ||天授7; 康暦3年|<任命>備中半国守護「石塔頼房」(~同年)

1381年1月26日-09:00|日本|静岡県静岡市葵区|天授7; 康暦3年|無文元選、方広寺派金剛山宝泰寺(伝馬町)を開創

1381年1月26日-09:00|日本|静岡県浜松市西区|天授7; 康暦3年|東本徳寺(馬郡町)・西本徳寺(馬郡町)開山

1381年1月26日-08:00|中国| ||明・洪武14年1月|全国一斉に魚鱗図冊(土地台帳)、賦役黄冊(戸籍台帳)を作り、里甲制(村落の自治的行政制度)・衛所制(兵農一致による軍事制度)を実施

1381年2月18日-09:00|日本|大阪府泉佐野市|天授7; 康暦3年1月24日|山名氏清、大軍を以て泉州土丸城を囲む。和田正武病みて、その子正利・正次防戦す。然と雖も城落ち、神宮寺師綱、福塚忠貞等討死

1381年3月6日-09:00|日本| ||弘和元; 康暦3年2月10日|南朝が「弘和」に改元

1381年3月20日-09:00|日本| ||弘和元; 永徳元年2月24日|北朝が「永徳」に改元

1381年3月24日-09:00|日本|大分県宇佐市|弘和元; 永徳元年2月28日|宇佐宮前大宮司宮成公居・公内父子、大宮司職押妨のため弥勒寺に乱入し、宇佐宮大宮司出光公行と合戦し弥勒寺の重宝を奪い取る

1381年3月27日-01:00|スペイン| |||<死去>アナ・マヌエル・デ・カスティリヤ(生年1339年、カスティリヤ王エンリケ2世の王妃)

1381年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ルカ・ティエーノ・ディ・ベッラルド」, 「サンペリーノ・ディ・ジョヴァンニ」

1381年4月6日-09:00|日本|京都府相楽郡笠置町|弘和元; 永徳元年3月11日|<再建>山城笠置寺

1381年4月25日-09:00|日本| ||弘和元; 永徳元年4月|<交替>阿波国守護「細川政氏」⇒「細川頼之」(~明德3・元中9年3月2日(13920325)死去)

1381年5月2日-01:00|オーストリア/イタリア| |||トリエステ、ヴェネツィアからオーストリアに

1381年5月19日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「アル=マンズール=アラ=アド=デ=イン=アリ=イブン=アル=アシュラフ=シャバン」

1381年5月19日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝第27代スルタン「サーリフ=ハッジ=」(~13821126)

1381年5月19日-09:00|日本|京都府京都市上京区|弘和元; 永徳元年4月25日|<落成>室町第(花の御所)

1381年5月20日-09:00|日本|熊本県山鹿市|弘和元; 永徳元年4月26日|今川仲秋、菊池武朝の肥後国城野城を陥れる

1381年5月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリンゲン方伯・マイセン辺境伯「フリードリヒ3世」

1381年5月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>マイセン辺境伯「ゲオルク」フリードリヒ3世の三男、フリードリヒ4世、ゲイルヘルム2世の弟(~1402年)

1390迄 (1294件)

1381年5月21日-09:00|日本|熊本県|弘和元:永徳元年4月27日|今川仲秋、菊池勢を撃破
 1381年5月30日 00:00|イギリス| |||<ワット・タイラーの乱>ワット・タイラーに率いられた暴徒たちがロンドンを占領。ロンドン市内で狼藉の限りを尽くす。ロンドン塔に逃げ込んだリチャード2世は、暴徒たちの不処罰と農奴の解放を約束
 1381年6月4日-09:00|日本|熊本県上益城郡山都町|弘和元:永徳元年5月12日|今川仲秋、菊池武朝方・寺尾城(亀甲城)を落す
 1381年6月15日 00:00|イギリス| |||<ワット・タイラーの乱>ワット・タイラー、ロンドン市長ウィリアム・ウォールワースによって刺殺
 1381年6月16日-01:00|ポーランド| |||<死去>マゾフシェ公・ワルシャ・チェルスカ公「シモグイト3世」
 1381年6月16日-01:00|ポーランド| |||<即位>プウォツク公「シモグイト4世」シモグイト3世の息子(~14260121死去)
 1381年6月16日-01:00|ポーランド| |||<即位>ワルシャワ公「ヤヌシュ1世」シモグイト3世の息子(~14291208死去)
 1381年6月17日-01:00|ドイツ| |||ライン都市同盟が、シュヴァーベン都市同盟と合体して南ドイツ都市同盟を結成
 1381年6月23日-09:00|日本|鹿児島県肝属郡南大隅町|弘和元:永徳元年6月1日|大隅彌寝久清、佐多城を陥れる
 1381年7月14日-09:00|日本|熊本県山鹿市|弘和元:永徳元年6月22日|今川了俊・今川仲秋、肥後隈部城に菊池武朝・菊池武興を攻落/良成親王、肥後染土城に入る/
 1381年7月15日 00:00|イギリス| |||<ワット・タイラーの乱>指導者の一人ジョン・ボールを処刑し鎮圧
 1381年7月15日-09:00|日本|熊本県菊池市|弘和元:永徳元年6月23日|今川五郎、懐良親王を肥後国染土城に攻め南軍潰走
 1381年7月17日-09:00|日本|熊本県宇土市|弘和元:永徳元年6月26日|良成親王、今川了俊に宇土城を攻められ八代に走る
 1381年7月25日-09:00|日本|鹿児島県曾於市|弘和元:永徳元年7月4日|今川満範、末吉城を抜き、志布志と都城との連絡を絶つ
 1381年7月28日-09:00|日本|鹿児島県始良郡湧水町|弘和元:永徳元年7月7日|今川満範、池平を抜き、土持氏に之を守らしめる
 1381年8月8日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィアがジェノヴァとトリノ条約を結び、地中海商業で優位を勝取る
 1381年8月8日-09:00|日本|宮崎県都城市|弘和元:永徳元年7月18日|北党名和慈冬、日向都城北郷誼久を攻める/今川満範、末吉・池平を取り都城に向う/北党相良前頼・税所介祐義、於奴止利城を陥れる
 1381年8月10日-02:00|リトアニア| |||<退位>リトアニア大公「ジョガイ」叔父のグストタイスに退位させられる
 1381年8月25日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェラーテ侯「テオドロ2世」ジョヴァンニ2世の三男(~14180416)
 1381年8月25日-09:00|日本|熊本県宇城市|弘和元:永徳元年8月6日|今川了俊、肥後亀崎に城を構える
 1381年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「マシオ・ディ・トソ」「ニコロ・ディ・ギ・オガ」
 1381年10月1日-09:00|日本|熊本県上益城郡益城町|弘和元:永徳元年9月13日|今川軍、腰尾城を抜く
 1381年10月10日-09:00|日本| |||弘和元:永徳元年9月22日|彗星東方に出現。長さ1丈5、6尺計り。27日暁彗星
 1381年10月18日-09:00|日本| |||弘和元:永徳元年10月|<任命>下野国守護「上杉憲方」(~元中3・至徳3(1386)年)
 1381年11月17日-08:00|中国| |||明・洪武14年11月|明、広東で妙平王らの反乱
 1381年11月26日-09:00|日本|京都府京都市東山区|弘和元:永徳元年11月10日|僧元聖、京都に悲田院を建立
 1381年12月2日-09:00|日本|栃木県小山市|弘和元:永徳元年11月16日|白旗一揆、小山義政の鷲城を攻略
 1381年12月19日-09:00|日本| |||弘和元:永徳元年12月3日|宗良親王、「新葉和歌集」を撰進
 1381年12月19日-09:00|日本|栃木県|弘和元:永徳元年12月3日|小山義政、足利氏満に降伏し剃髪
 1381年12月26日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド 副王「マーチ伯エドマント・モティマー」
 1381年12月27日 00:00|イギリス| |||<死去>アルスター伯・マーチ伯「エドマント・モティマー」
 1381年12月27日 00:00|イギリス| |||<就任>マーチ伯「ロジャール・モティマー」先代の子(⇒1382年兼アルスター伯~13980720死去)
 1382年-05:45|ネパール| |||<即位>マラ国王「Jayasthiti Malla」(~1395年)
 1382年-05:30|インド| |||<即位>ファル朝ハン「マリク・ラージャール」建国(~1399年)
 1382年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Hushang1世」
 1382年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Ibrahim1世」(~14180915死去)
 1382年-04:00|ロシア| |||キプチャク・ハン国がモスクワを再占領
 1382年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ジャライル朝第5代国王「バーヤズィート」(~1383年)
 1382年-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「ネンヤ・マリアム・ネンヤ・クレスト」
 1382年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「タウイト1世」(~1411年)
 1382年-03:00|ベラルーシ| |||<復位>ポロツク公「アントリュス・アルキルダイト」(~1387年)
 1382年-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バリー朝スルタン「As-Saleh Hajji2世」(1期目~同年)
 1382年-02:00|ギリシャ| |||<即位>モリス専制公「セオドロス1世パレオロゴス」(~1407年)
 1382年-01:00|フランス| |||<就任>プロヴァンス伯「ルイ1世」ジャンヌ1世の養子(アンジュー公・トゥレーヌ公・ポワティエ伯・メヌ伯~13840920死去)
 1382年-01:00|ドイツ| |||<就任>マイン辺境伯「ヴァイルヘルム1世」フリートリヒ2世の次男、フリートリヒ3世の弟(~14070209死去)
 1382年-01:00|アルバニア/イタリア| |||ブトリントをシリア王国(ホーリ)が統治(~13860609)
 1382年 00:00|イギリス| |||<就任>バカン伯「アレクザンダー・ステュアート」(~14050620死去)
 1382年1月-01:00|イタリア| |||<就任>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「ルイージ」ルイ1世の長男、アンジュー公ルイ2世(~13840920死去)
 1382年1月5日 00:00|イギリス| |||<死去>アルスター伯「女伯爵フィリッパ・オブ・クラレンス」
 1382年1月5日 00:00|イギリス| |||<就任>アルスター伯「ロジャール・モティマー」マーチ伯(~13980720死去)
 1382年1月7日-09:00|日本|長崎県南島原市|弘和元:永徳元年12月22日|今川了俊、肥前高来(来)の菊池武資・有馬泰隆を大浦・有家両城を攻め敗れ、黒坊山に奔る/菊池武資らこれを陥れる

1390迄 (1294件)

1382年1月10日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「アーサー大司教ジョン・コルトン」(~3.3)
 1382年1月15日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年|<任命>佐渡国守護「畠山基国」(~不詳)
 1382年1月15日-09:00|日本|京都府京都市上京区|弘和2・永徳2年|足利義満、鹿苑院を創建
 1382年1月30日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年1月16日|<退任>関東管領「上杉(山内)憲方」
 1382年2月6日-09:00|日本|佐賀県藤津郡太良町|弘和2・永徳2年1月23日|新田左京亮、今川了俊の軍に加わり肥前大浦城を抜く/菊池武資は小松崎に退き有馬泰隆は降る/今川了俊、小松崎を襲い、菊池武資は遁走
 1382年2月6日-09:00|日本|奈良県奈良市|弘和2・永徳2年1月23日|春日社焼ける
 1382年2月15日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯「ウィリアム・ド・ウ・アフォート」
 1382年3月1日-01:00|フランス| |||シャルル6世が新設した税に対して反対した市民が、マヨタン一揆を起こす
 1382年3月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「マーチ・アルスター伯ロジャール・モーター」(~1383年9月)、代行「トマス・モーター卿」(~1383年9月)
 1382年3月9日-09:00|日本|大阪府堺市美原区|弘和2・永徳2年閏1月24日|楠木正儀、再び南朝方となり山名氏清と河内国平尾で交戦し敗れる
 1382年3月16日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年2月|<交替>河内国守護「楠木正儀」⇒「畠山基国」(~応永13年1月17日(14060205)死去)
 1382年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ウゴリーノ・デ・ジョヴァンニ」「ジヨヴァンニ・デ・イ・アントレア」
 1382年4月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルプスト侯「Johann2世」
 1382年4月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ツェルプスト侯「Waldemar3世」(~1391年死去)、「Sigismund1世」、「Albert4世」(~1396年アンハルト・デッサウとアンハルト・ケーテンに分割)共同統治
 1382年4月30日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年3月17日|御子左為重が新後拾遺和歌集四季部六巻を撰進
 1382年5月5日-09:00|日本|栃木県小山市|弘和2・永徳2年3月22日|小山義政、再び足利氏満に背き下野国祇園城を焼いて同国糟尾山に挙兵
 1382年5月9日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴーニュ女伯、アルトワ女伯「マルグリット1世」(生年1310年)
 1382年5月9日-01:00|フランス| |||<就任>アルトワ伯「ルイ3世」兼ブルゴーニュ伯「ルイ1世」(フランドル伯ルイ2世/ヌヴェール伯・レル伯ルイ3世~13840130死去)
 1382年5月12日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>ナポリ王「ジョヴァンナ1世」兼プロヴァンス伯「ジャンヌ1世」ハンガリー王ラヨシュ1世の命を受けた遠縁のカルロ3世によって暗殺される
 1382年5月12日-01:00|イタリア| |||<即位>ナポリ王「カルロ3世」(~13860224死去)
 1382年5月24日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年4月11日|<再任>摂政「二条良基」(~至徳4年2月7日)
 1382年5月24日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年4月11日|<譲位>北朝5代「後円融天皇」⇒「踐祚」>「幹仁親王」
 1382年5月26日-09:00|日本|栃木県鹿沼市|弘和2・永徳2年4月13日|小山義政、足利氏満に敗れて粕尾の山中で自殺
 1382年5月31日-09:00|日本|熊本県菊池市|弘和2・永徳2年4月18日|菊池武朝・高瀬武儀・葉室親善・伯耆入道紹覚、守山を陥れる/城武岑は自害し、宇佐大宮司惟永は帰順
 1382年6月5日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第60代「アントニオ・コンタリニ」
 1382年6月10日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ第61代「ミケレ・モロシニ」(~13821016死去)
 1382年8月3日-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア大公「ケストウティス」甥のジョギイに捕われ、殺害された
 1382年8月3日-02:00|リトアニア| |||<復位>リトアニア大公「ジョギイ」(2回目⇒13860215、「ウラディスラフ」に改名)
 1382年8月7日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年6月27日|<再任>関東管領「上杉憲方(山内)」(~明徳3・元中9(1392)年4月22日退任)
 1382年8月7日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年6月27日|<任命>下野国守護「木戸法季」(~至徳3・元中3(1386)年7月解任)
 1382年8月13日-01:00|スペイン| |||<死去>レオナルド・アラゴン(生年1358年、カスティリヤ王ファン1世の最初の王妃)
 1382年8月20日-09:00|日本|愛知県一宮市|弘和2・永徳2年7月11日|<死去>尾張国妙興寺開山・滅宗宗興
 1382年9月10日-01:00|ハンガリー/ポーランド/クロアチア| |||<死去>ハンガリー国王「ラヨシュ1世(大王)」兼クロアチア王「ルイ1世大王」兼ポーランド王「ルボウイク1世」56歳(誕生13260305)
 1382年9月10日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド王「ヤドヴァガ・アンデガウエンスカ」ラヨシュ1世の娘。男性の王として(13841016戴冠~13990717)1386年より夫のウラディスワフ2世ヤギェウォと共同統治
 1382年9月11日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パティン「ミロス・ガライ」(~13851006)
 1382年9月11日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「マリア」ラヨシュ1世の次女(1回目~13851231)
 1382年10月-01:00|イタリア/オーストリア| |||トリエステはオーストリアに割譲される
 1382年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンジョ・デ・イ・チェッコロ」「ベルナルド・デ・イ・ゲロ」
 1382年10月4日-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァのガスターノ・デル・ポポロ「フランチェスコ1世・ゴンザーガ」(~14070307死去)
 1382年10月13日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<死去>エルサレム王・キプロス王国国王「ヒョートル2世肥満王」
 1382年10月13日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス総督「ジャン(ヨハン)・ド・ブリエ」(~1385年5月)
 1382年10月13日-02:00|パレスチナ/キプロス| |||<即位>エルサレム王・キプロス王国国王「ジャック1世」(~13980909死去)
 1382年10月15日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ミケレ・モロシニ」
 1382年10月16日-01:00|イタリア| |||<再任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「アントニオ・ヴェニエ」(~1400年)
 1382年10月31日-02:00|リトアニア/ドイツ| |||サモグチアはリトアニアからドイツ騎士団に譲渡された
 1382年11月-02:00|エジプト| |||<即位>ブルグ朝スルタン「ザ・ヒル・バルーク」(1期目~1389年死去)
 1382年11月22日-09:00|日本| ||弘和2・永徳2年10月17日|<交替>薩摩国守護「今川貞世」⇒「島津伊久」復職(~応永元(1394)年8月解任)

1390迄 (1294件)

1382年11月24日-09:00|日本|香川県坂出市|弘和2;永徳2年10月19日|讃岐白峰寺焼失
1382年11月26日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ザ・ヒル・バルーク」(~13890601死去)
1382年12月11日-09:00|日本| ||弘和2;永徳2年11月6日|月蝕
1383年-04:30|アフガニスタン| |||ミラーン・シャーがヘラートを併合
1383年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ボリス・コンスタンチノヴィチ」(~1392年)
1383年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ジャイル朝第6代国王アハマド「ウ・アイス1世の子. フサイン1世の弟」(~1410年)
1383年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「トナート・トロノ」(~1385年)
1383年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクソス摂政「フィオレンツァ2世サヌート」(~1397年)
1383年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイ公代理総督「ペドロ・ボルト・デ・サン・スペラン」(⇒1396年、アカイ公~1402年)
1383年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウーロニー公「テオドラス・リュバ・ルイティス」(~1392年)
1383年-02:00|ギリシャ| |||<即位>モリス尊厳公(対立統治者)「デ・ミトリオス・カンダグノス」(~1384年)
1383年-02:00|トルコ| |||<即位>ラマダニス・ハン「Sihabeddin Ahmed・ベイ」(~1416年)
1383年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルツク公「フィオ・ラス」(~1387年)
1383年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||オスマン帝国がアトス半島を占領(~1403年1月)
1383年-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク＝グエルムンハーゲン侯「アルブレヒト1世」
1383年-01:00|アルバニア| |||<就任>アルバニア公「バルシャ・バルシッチ・ゼツコイ」反体制派(~13850918死去)
1383年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「シュテファン2世ラックヴィ」(~1384年)
1383年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク＝グエルムンハーゲン侯「エーリヒ」アルブレヒト1世の息子(~14270528死去)
1383年-01:00|アルジェリア| |||<復位>ザイヤン朝スルタン「Abu Zayyan Muhammad2世 ibn Uthman」(~1384年)
1383年 00:00|ポルトガル/スペイン| |||ポルトガルとカスティーリヤとの間で講和条約が結ばれた
1383年1月-01:00|フランス| |||フランス王シャルル6世の軍隊が急襲し、パリの「マイトンの乱」の叛徒を鎮圧
1383年2月1日-09:00|日本| ||弘和2;永徳2年12月28日|<即位>100代「後小松天皇」幹仁親王(~14120829)
1383年2月3日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年|<交替>讃岐・土佐国守護「細川頼元」⇒「細川頼之」(~元中9・明德3年3月2日(13920325)死去)
1383年2月3日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年|<任命>日向国守護「大友親世」(~至徳元・元中元(1384)年)
1383年2月3日-09:00|日本|京都府京都市左京区|弘和3;永徳3年|この年、足利義満が釈迦・薬師・弥勒三像を南禅寺に造立
1383年2月12日 00:00|イギリス| |||<死去>ノッティンガム伯「ジョン・ド・モウブレイ」
1383年2月12日 00:00|イギリス| |||<就任>ノッティンガム伯「トマス・ド・モウブレイ」(⇒1397年兼ノーフォーク公爵~13990927死去)
1383年3月-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクソス公「フランチェスコ1世クリスト」(~1397年)
1383年3月1日-01:00|フランス/イタリア| |||<死去>サヴォイア伯「アメー・オ6世」
1383年3月1日-01:00|フランス/イタリア| |||<就任>サヴォイア伯「アメー・オ7世」(~13911101死去)
1383年3月13日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年2月9日|今川了俊、武家教訓書「竹馬抄」を著す
1383年4月-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団対立マスター「リカルド・カラッチョロ」(~13950518没)
1383年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パオリーノ・ジョヴァンニ・デ・イ・ビアンコ」「ギ・デ・イ・ノ・デ・イ・フォスキノ」
1383年4月7日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国「ジョー・フェデリコ・デ・イ・パガナ」(~同日)⇒「レオナルド・モンタルド」(~13840614死去)
1383年4月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>メクレンブルク＝シュヴェリーン公「ハインリヒ3世」
1383年4月24日-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク＝シュヴェリーン公「マグヌス1世」アルブレヒト2世の息子(~13840901死去);「アルブレヒト4世」ハインリヒ3世の息子、共同統治者(~13881224死去)
1383年4月30日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年3月27日|<死去>懐良親王(55歳、生年1329年/南朝皇族)
1383年5月15日-09:00|日本|福島県白河市|弘和3;永徳3年4月13日|小山義政の子の若犬丸は奥州に逃れ、鎌倉公方足利氏満と白河に戦うが敗れて、所在不明となり嫡流としての小山氏はここで一旦は滅亡
1383年5月16日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年4月14日|今川方の相良前頼が南朝に帰順
1383年6月15日-02:00|トルコ| |||<死去>ヨハネス6世カタクゼノス(生年1295年、元東ローマ帝国パトリオス王朝の皇帝)
1383年7月1日-07:00|ベトナム| ||大越・昌符7年6月|チャンパ軍が再びハノイを襲撃
1383年7月17日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「ジャック・デ・ポー」
1383年8月11日-09:00|日本|京都府京都市|弘和3;永徳3年7月12日|京都豪雨、鴨川氾濫、四条橋・五条の橋流失
1383年9月-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ワスィク2世」(~13861113)
1383年9月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副王「フィリップ・ト・コートネー卿」(1回目~13841102)
1383年9月7日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|弘和3;永徳3年8月10日|宗良親王、遠江国井谷に下向/天野一党・井伊一族これを守る
1383年9月28日-09:00|日本|兵庫県加東市|弘和3;永徳3年9月2日|赤松氏則、幕府軍と播磨国清水で交戦し敗死
1383年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ルドルフ・ノ・デ・イ・ベ・ルナルド」「ジャンニ・ノ・デ・イ・カヴァッリツォ」
1383年10月10日-09:00|日本|京都府京都市上京区|永徳3;弘和3年9月14日|足利義満、安聖院を鹿苑院と改める
1383年10月22日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「フェルナント1世美男王」(誕生1345年)
1383年10月22日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル女王「ベアトリス」(~13850406)
1383年10月22日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|永徳3;弘和3年9月26日|尾張国氷上社において、遷宮が行われる
1383年10月28日-06:30|ミャンマー| |||<就任>ペーゲー摂政「マハ・デ・ウィ」(~13840104)
1383年11月-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>ミラハニド朝マリク「Taj al-Din Shah-i Shahan Abu'l Fath」(~1403.2死去)

1390迄 (1294件)

1383年11月22日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年10月27日|<譲位>98代長慶天皇
 1383年11月22日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年10月27日|<踐祚>99代後龜山天皇 (~13921005)
 1383年11月22日-09:00|日本/中国|沖縄県|弘和3;永徳3年10月|汪英紫、甥の山南王、明に進貢
 1383年11月25日-01:00|イタリヤ/トルコ| ||ベネチア、ビザンツ皇帝との条約
 1383年11月25日-09:00|日本| ||弘和3;永徳3年11月|<任命>摂津国守護「細川頼元」(~応永4年5月7日 (13970602) 死去)
 1383年12月7日-01:00|ルクセンブルグ/ベルギー/オランダ| ||<死去>ルクセンブルク公「ウエンツェル1世」兼ブラバント公「ウエンセラス1世」
 1383年12月8日-01:00|ルクセンブルグ| ||<即位>ルクセンブルク公「ウエンツェル2世」ドイツ王・ホヘンシュタイン王 (~13880226退位)
 1384年-02:00|エストニア/ドイツ| ||<就任>リガニアのレヴァル司令官「ブルノ・フォン・ホフシュタデン」(~同年)
 1384年-02:00|トルコ| ||<即位>イスファニヤリヤ君主「スレイマン2世サ」(~1385年)
 1384年-01:00|イタリヤ| ||<死去>エステ辺境伯「フランチェスコ2世」
 1384年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<死去>シュレースヴィヒ公「ヘンリク・ヤーン (ホルシュタイン=レンズブルク伯ハインリヒ2世)」
 1384年-01:00|ドイツ| ||<死去>ハッハブルク=ザウゼンベルク辺境伯「オットー」
 1384年-01:00|ドイツ| ||<死去>ホルシュタイン=レンズブルク伯「ハインリヒ2世」
 1384年-01:00|イタリヤ| ||<就任>エステ辺境伯「アッツォ10世」(~1415年死去)
 1384年-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||<就任>クロアチアとダルマチア・パン「トマ・オット・スヴ・ユルヤ」(~1385年)
 1384年-01:00|ドイツ| ||<就任>ホルシュタイン=レンズブルク伯「ゲルハルト6世」(~14040805死去),「アルブレヒト1世」(~1397年)
 1384年-01:00|チャド| ||<即位>カネム(西アフリカ)王「ウル・ビン・イト・リス」ホムスーに遷都(カネム=ホムスー帝国)
 1384年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ナポリ王「ルイジ2世」(~1417年)対立王、1389年から1399年までデ・イスラオ1世に取って代わった
 1384年-01:00|アルジェリア| ||<復位>サイヤン朝スルタン「アブー・ハンム2世」(~1387年)
 1384年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Roger Walden」(~1385年)
 1384年 00:00|イギリス| ||<就任>ノサンプトン伯「ヘンリー」(~13990930国王ヘンリー4世となる)
 1384年 00:00|モロッコ| ||<即位>マリーン朝スルタン「アブー・サイヤン・ムハマト4世」(~1386年)
 1384年1月 00:00|ホルガール/スウェーデン| ||ホルガール女王ベアトリクス(の夫でもあるカスティリヤ王ファン1世がホルガールに侵入)
 1384年1月2日-06:30|ミャンマー| ||<死去>ベグ-王「ヒンニャー・ウー」
 1384年1月4日-06:30|ミャンマー| ||<即位>ベグ-王「ラーザ・デ・イリ」(~14211229没)
 1384年1月23日-09:00|日本| ||弘和4;永徳4年|<交替>大隅国守護「今川貞世」退任⇒「島津氏久」(~元中4・嘉慶元年閏5月4日 (13870620) 死去)
 1384年1月23日-09:00|日本| ||弘和4;永徳4年|<交替>日向国守護「大友親世」⇒「今川貞世」(~不詳)
 1384年1月23日-09:00|日本| ||弘和4;永徳4年|<任命>信濃国守護「斯波義種」(~嘉慶元・元中4 (1387) 年6月)
 1384年1月23日-09:00|日本|山梨県甲州市|弘和4;永徳4・至徳元年|この年、後醍醐天皇の第6皇子である無文元選が甲斐塩山元中寺建立
 1384年1月30日-02:00|リトアニア| ||<即位>リトアニア対立大公「アレクサンドラス」ケストウティスの子(⇒13920805、リトアニア大公~14301027没)
 1384年1月30日-01:00|フランス/ベルギー| ||<死去>アルトワ伯・スヴエール伯・ルテル伯「ルイ3世」兼フランドル伯「ルイ2世」兼ブルゴニュー伯「ルイ1世」
 1384年1月30日-01:00|ベルギー/フランス| ||<就任>フランドル伯・ブルゴニュー伯「マルク・リット3世」兼アルトワ伯「マルク・リット2世」兼スヴエール伯・ルテル伯「マルク・リット」ルイ2世の娘(~14050316死去);フランドル伯・ブルゴニュー伯「フィリップ2世」兼スヴエール伯・ルテル伯「フィリップ1世」ブルゴニュー公(~14040427死去)
 1384年1月30日-01:00|フランス| ||<就任>プロヴァンス伯「ルイ2世」(~14170429死去)
 1384年3月19日-09:00|日本| ||弘和4;至徳元年2月27日|北朝が「至徳」に改元
 1384年4月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「サンペリー・デ・イ・ジョヴァンニ」「マルチノ・デ・イ・ゲロ・デ・ヒ・ストルジ」
 1384年5月1日 00:00|イギリス| ||<死去>ダグラス伯「William Douglas」
 1384年5月1日 00:00|イギリス| ||<就任>ダグラス伯「James Douglas」(~13880814戦死)
 1384年5月18日-09:00|日本| ||元中元;至徳元年4月28日|南朝が「元中」に改元
 1384年5月21日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|元中1;至徳1年5月|無文元選(後醍醐天皇第7皇子)、奥山六郎次郎朝藤に迎えられ、方広寺(引佐町奥山)開創
 1384年6月8日-09:00|日本|静岡県|元中1;至徳1年5月19日|<死去>遠江国守護「今川範国」90歳/子ので俊が継ぐ(~元中5・嘉慶2 (1388) 年)
 1384年6月8日-09:00|日本|静岡県富士宮市|元中1;至徳1年5月19日|<死去>観阿弥が駿河の浅間社で/52歳(誕生:元弘3(南);正慶2(北) (1333))/能楽観世流の祖
 1384年6月14日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ジェノヴァ共和国ドージェ「レオナルド・モンタルド」
 1384年6月15日-01:00|イタリヤ| ||<再任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アントニオット1世アトルノ」(2期目~13900803)
 1384年9月1日-01:00|ドイツ| ||<死去>メクレンブルク=シュヴァーリン公「マグヌス1世」
 1384年9月1日-01:00|ドイツ| ||<即位>メクレンブルク=シュヴァーリン公「ヨハン4世」マグヌス1世の息子(~14221016死去);「アルブレヒト3世」アルブレヒト2世の息子、スウェーデン王(~14120401死去)
 1384年9月16日-09:00|日本|熊本県上益城郡益城町|元中元;至徳元年9月|菊池武朝、今川仲秋と戦い腰尾城を抜く
 1384年9月20日-01:00|フランス/イタリヤ| ||<死去>ナポリ対立王「ルイジ1世」兼カラブリア公「ルイジ」兼アンジュー公・トウレーヌ公・ホワティエ伯・メヌ伯・プロヴァンス伯「ルイ1世」45歳

1390迄 (1294件)

1384年9月20日-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ルイ2世」(~14170429死去)
 1384年9月20日-01:00|イタリア| |||<即位>ナポリ対立王「ルイジ2世」(~14170429死去)
 1384年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パオロ・デ・イ・チェッコ」
 1384年10月9日-03:30|イラン| |||<死去>ムザッファル朝スルタン「シャー・シュジャー」
 1384年10月9日-03:30|イラン| |||<即位>ムザッファル朝スルタン「サィヌル・アービデーン」(~1387年ティムールの侵攻を受けて廃位)
 1384年10月16日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド王「ヤドヴィガ・アンデガウエンスカ」ヨシュ1世の娘/男性の王として即位 (1386年より夫のヴワディスワフ2世ヤェウと共同統治~1390717)
 1384年11月2日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「オーモント 伯ジェームズ・バトラ」(~13850506)
 1384年12月23日-02:00|ギリシャ| |||<死去>エピロス専制公「トマス2世コムネノス・パライオロガス」
 1384年12月23日-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス専制公「マリア・アンジェリナ・ドゥカヤ・パレオロギナ」(~1385年2月)
 1385年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王国マンラーイ朝国王「センムアンマー」(~1401年)
 1385年-05:00|モルデイヴ| |||<即位>ティームゲ朝「Sultana Dhaain Keerithi Maha Rehendi」(~1388年廃位)
 1385年-02:00|ルーマニア| |||<死去>ワキア総督・領主「ラドゥ1世黒侯」
 1385年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「マルコ・ゼーノ」(~1387年)
 1385年-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ダン1世」ラドゥ1世の息子(~13860923死去)
 1385年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「ネオ1世」(~13940917死去)
 1385年-02:00|トルコ| |||<即位>イスフェンディヤリス 君主「Isfendiyar・ベイ」(~1440年)
 1385年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||エピロスはオスマン帝国の宗主権下(~1430年)
 1385年-02:00|ブルガリア/トルコ| |||オスマン帝国がソフィアを占領
 1385年-02:00|リトアニア/ポーランド| |||リトアニアとポーランドが「クレウの合同」
 1385年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「モーリッツ2世」(~1420年)
 1385年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・パン「イヴァン・パリジユナ」スラヴ・オニア・パン(~1386年)
 1385年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴ・オニア全土のパン「イヴァン・オット・パリジユナ」(~1386年)
 1385年-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国執事「デゲンハルト・フッゲンハーゲン」
 1385年 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「マイケル・ド・ラ・ポール」(~1388. 2剥奪)
 1385年 00:00|イギリス| |||<就任>ヨーク公「エドマント・オブ・ラングリー」ケンブリッジ 伯(~14020801死去)
 1385年1月12日-09:00|日本|熊本県宇城市|元中元;至徳元年12月|菊池武朝、今川五郎を亀崎城に攻めて抜く
 1385年2月-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス専制公「イサフ・ブ・オンテメント」(~14110206死去)
 1385年2月8日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア、パドヴァに対してフリリ人との同盟
 1385年2月10日-09:00|日本| ||元中2・至徳2年|<交替>甲斐国守護「武田信春」⇒「武田信満」(~応永24年2月6日(14170222) 死去)
 1385年2月10日-09:00|日本|静岡県磐田市|元中2;至徳2年|日什上人、玄妙寺(見付)草創
 1385年2月19日-09:00|日本|熊本県八代市|元中2;至徳2年1月10日|島津氏久・島津伊久・相良前頼、款を南軍に納れて、二見の北朝宮内大輔三雄を攻めようとする/宮内大輔三雄退いて佐敷を保つ
 1385年3月-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<死去>リガ・オニア騎士団団長「ウイヘルム・フォン・フリーマースハイム」
 1385年3月-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リガ・オニア騎士団団長代行「ロビン・フォン・エルツ」(~13880810)
 1385年3月12日-09:00|日本|沖縄県|元中2・至徳2年2月|汪英紫、大グスクを攻め取り次男のシクルを大グスク按司にする
 1385年3月21日-09:00|日本|鹿児島県|元中2;至徳2年2月10日|大隅の禰寝氏、南朝に寝返る
 1385年3月28日-09:00|日本| ||元中2;至徳2年2月17日|<任命>(南朝)肥前国守護「相良前頼」(~元中9・明德3(1392) 年)
 1385年4月5日-09:00|日本|静岡県島田市|元中2;至徳2年2月25日|滝道鑑斎、上湯日村天神社創建
 1385年4月6日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「ジョアン1世」(~14330814死去)ペドロ1世の非嫡出子
 1385年4月8日-01:00|イタリア| |||<就任>グラーフィナ伯「Spinetta2世Malaspina」(~1398年死去)
 1385年4月10日-09:00|日本|京都府京都市右京区|元中2;至徳2年3月|足利義満、禅殺宝幢寺を建てる
 1385年5月6日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「ジャン・ガレアツォ・ウイスコンティ」(⇒13950905ミラノ公~14020903死去)
 1385年5月6日-01:00|イタリア| |||<退任>ミラノ・シニョレ「バルサッザ・ウイスコンティ」(~12. 18死去)
 1385年5月6日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「フィリップ・ド・コートネイ卿」(2回目~13860422)
 1385年6月15日-01:00|イタリア| |||<再位>ジェノヴァ共和国「ジョーゼ・アントニオット1世アトルノ」(~1390年)
 1385年6月28日-02:00|トルコ| |||<死去>元東ローマ帝国パレオロガス王朝の皇帝「アントニヌス4世パレオロガス」(生年1348年)
 1385年6月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ウイッテンベルク公・リュネブルク侯「アルブレヒト3世」
 1385年7月8日-09:00|日本|長野県木曽郡木曽町|元中2;至徳2年6月1日|木曾家信、木曾御嶽権現の社殿を造立、尋で、また水無大明神の社殿を造立
 1385年7月17日-01:00|フランス| |||16歳のフランス王シャルル6世、「バリエル公家」のエリザベト・フォン・バリエル(イザボート・バウエール)と結婚
 1385年8月6日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ヨーク公「エドマント・オブ・ラングリー」初代ケンブリッジ 伯(~14020801死去)
 1385年8月6日 00:00|イギリス| |||<就任>グロスター公「トマス・オブ・ウットストック」(~13970908暗殺される)
 1385年8月7日 00:00|イギリス| |||<死去>第4代セント女伯「ジョーン・オブ・セント」(生年1328年、エドワード 黒太子の妃)
 1385年8月7日-09:00|日本|徳島県阿波市|元中2・至徳2年7月|細川頼之、阿波国秋月に宝冠寺を創建し、絶海中津をその開山とする
 1385年8月14日 00:00|ポルトガル| |||<就任>パルメロ公「Nuno Alvares Pereira」(~14341101死去)
 1385年8月14日 00:00|ポルトガル/スペイン| |||<アルジュバロータの戦い>ポルトガル王ジョアン1世が、カスティリア王ファン1世の軍を撃

1390迄 (1294件)

ち破り、アヴイ朝ポルトガル王国の独立を確保

- 1385年9月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハティン「ミクロ・チェン・フェルゼント・ヴァイ」(2回目~1386年10月)
- 1385年9月3日 00:00|イギリス| |||<就任>オマル公・グロスター公「Thomas of Woodstock」(~13970908殺害される)
- 1385年9月14日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|元中2;至徳2年8月10日|<死去>宗良親王、井伊城にて/72歳
- 1385年9月18日-01:00|アルバニア| |||<死去>アルバニア公「バルシャ・バルシッチ・ゼツコイ」
- 1385年9月18日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<死去>ゼータ・リタル卿「バルシャ2世バルシッチ」
- 1385年9月18日-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<就任>ゼータ・リタル卿「ジュラジ2世ストラチミロヴィッチ」(~1403年4月死去)
- 1385年10月5日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||高麗・洪武17年9月|倭船150艘、高麗の咸州、洪原などを襲い、人民を皆殺しにする/李成桂、奮戦してこれを破る
- 1385年10月6日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハティン「ミクロ・シュ・セー・フェルゼント・ヴァイ」(~12月)
- 1385年11月4日-09:00|日本/中国|沖縄県|元中2・至徳2年10月|汪英紫、甥の山南王、明に進貢
- 1385年11月6日-09:00|日本|和歌山県海南市|元中2;至徳2年10月3日|楠木正久、紀伊国の篠城で戦死
- 1385年12月1日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「ダブリン侯爵ハート・デ・ウェール」(着任せず~1386年⇒13861013、アイルランド 公)
- 1385年12月1日 00:00|イギリス| |||<就任>ダブリン侯「ハート・ト・ウ・イア」9代オックスフォード 伯(⇒13861013兼アイルランド 公、1388.2剥奪~13921122事故死)
- 1385年12月9日-09:00|日本|愛媛県松山市|元中2;至徳2年11月7日|重賢(姓不明)ら、大通智勝仏を造る
- 1385年12月22日-09:00|日本|京都府京都市上京区|元中2;至徳2年11月20日|相国寺・大仏殿成る
- 1385年12月31日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「カロイ2世短命王」兼王リ王カロ3世(~13860224暗殺される)
- 1385年12月31日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<退位>ハンガリー王・クロアチア王「マリア」
- 1386年-07:00|タイ| |||<即位>カオ王王国国王カムタン(~1396年)
- 1386年-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||ティムールが第3次西征を開始、イラン西部のロスターンに侵入し破壊
- 1386年-04:00|ロシア| |||<死去>スモレンスク公「スガ・ヤスラフ・イヴァノヴィチ」戦死
- 1386年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ユリー・スガ・ヤスラフ・イチ」(~1392年)
- 1386年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「イヴァン・アント・レヴィチ」(~1394年)
- 1386年-03:30|イラン| |||<死去>サラハ・ダース王「Khwaja 'Ali-yi Mu'ayyad ibn Masud」
- 1386年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ルコメリ公「アント・リュス・アルギル・イティス」(~13990812死去)
- 1386年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トブルジャ支配者「イヴァンコ」(~1388年)
- 1386年-02:00|トルコ| |||オスマン朝がアマスヤを併合
- 1386年-02:00|トルコ| |||オスマン帝国がテッサリアに侵攻しテッサリアを一時的に占領
- 1386年-02:00|エジプト| |||マムルーク朝ハルークがカイロにマドラサを建設
- 1386年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<死去>シュレースヴィヒ公「クラウス(ホルシュタイン=レンズブルク伯ニコラウス)」
- 1386年-01:00|スペイン| |||<就任>アンブリアス伯「Peter2世」(~13870106死去)
- 1386年-01:00|フランス| |||<就任>ヴァロア伯「ルイ1世」(~1406年)
- 1386年-01:00|フランス| |||<就任>オーベルニュ伯「John2世」John1世の息子(~1394年)406年)
- 1386年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「モーリッツ2世」(~1420年)
- 1386年-01:00|フランス| |||<就任>モンパンス伯「John de Valois」(~1401年)
- 1386年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<即位>シュレースヴィヒ公「ゲアハ2世」(ホルシュタイン=レンズブルク伯「ゲルハルト6世」~14040805死去)
- 1386年-01:00|ドイツ| |||ライン選帝侯の通貨同盟が結成
- 1386年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラサン伯「テ・イヴ・イット・ステュアート」
- 1386年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン女伯「ユフェミア・ステュアート」テ・イヴ・イットの娘(~1413年)
- 1386年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ブカル・ダラ・ボ・ヨンボ」(~1394年)
- 1386年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「ムハンマド5世」(~1387年)
- 1386年1月4日-09:00|日本| ||元中2;至徳2年12月3日|<任命>山城国守護「山名氏清」(~至徳3・元中3(1386)年)
- 1386年1月31日-09:00|日本| ||元中3;至徳3年|<退任>丹後国守護「山名義幸」満幸が継ぐ(~元中8・明德2(1391)年11月8日解任)
- 1386年2月15日-02:00|リトアニア| |||<改名>リトアニア大公「ジョガイ」⇒「グ・ラティスロウ・アス」(⇒18日、兼ポランド 王グ・ラティスワフ2世)
- 1386年2月18日-01:00|ポランド/リトアニア| |||<即位>ポランド 王「グ・ラティスワフ2世」リトアニア大公グ・ラティスロウ・アス(1399年まで妻「グ・イグ」と共に統治~14340601死去)
- 1386年2月24日-01:00|ハンガリー/クロアチア/イタリア| |||<死去>ハンガリー王・クロアチア王「カロイ2世短命王」兼王リ王「カロ3世」派閥闘争に巻き込まれ殺害される。黒幕は元ハンガリー女王マリアの母でジョシ1世の未亡人エリザベータ・コトマニッチ
- 1386年2月24日-01:00|イタリア| |||<即位>ナポリ王「ラティスラオ1世」(~1389年廃位)
- 1386年2月24日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<復位>ハンガリー王・クロアチア王「マリア」(2回目~9.4)
- 1386年3月1日-09:00|日本|静岡県湖西市|元中3;至徳3年2月1日|吉美郷の佐原常慶・内藤金平延兼、日什上人を開山に延兼山妙立寺(吉見)開基
- 1386年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョハニ・デ・イ・フランシスコ」コッツォ・デ・イ・ムッチョリーノ
- 1386年4月22日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「キルメイト修院長リチャード・ホワイト」(~8.30)
- 1386年5月9日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||ポルトガルのジョアン1世が、イングランドと同盟を結ぶ(ウインザー条約)
- 1386年5月28日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||イオニア諸島がヴェネツィア共和国の領有地となる

1390迄 (1294件)

1386年5月28日-01:00|アルバニア/イタリア| |||ブトリントはヴェネツィア支配下 (~17970628)
1386年5月28日-01:00|イタリア| |||ベネツィア、コルフ島降伏
1386年6月7日-01:00|スイス| |||フリートリヒがゼンパッハの戦いでスイス農民軍に打ち破られた
1386年6月9日-01:00|オーストリア/スイス| |||ゼンパッハの戦い。ハプスブルク家のレオポルト3世が旧領奪回を図ってゼンパッハの山間地帯でスイス同盟軍と戦い、敗北し戦死する。(誕生:1351)
1386年6月24日-09:00|日本|栃木県小山市|元中3;至徳3年5月27日|小山犬若丸、下野国の祇園城に挙兵して守護代木戸修理亮を不留恵山で撃破
1386年6月26日-01:00|ドイツ| |||ハインリッヒ大学が創設される
1386年7月9日-01:00|オーストリア/イタリア/スロベニア| |||<死去>内オーストリア公・シュターアマルク公「レオポルト3世」兼チロル伯「レオポルト1世」兼ケルテン公・カルニオラ公「レオポルト」
1386年7月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=ハッハの辺境伯「オットー1世」
1386年7月9日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン=ハッハの辺境伯「ヘッリ」(~1410年)、「ヨハン」(~1409年)
1386年7月9日-01:00|オーストリア| |||<即位>前方オーストリア公「レオポルト4世」レオポルト3世の息子(~14110603死去40歳)
1386年7月9日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<即位>ケルテン公・内オーストリア公・シュターアマルク公・カルニオラ公・チロル伯「ヴェルヘルム洗練公」レオポルト3世の息子(~14060715死去36歳)
1386年7月9日-01:00|オーストリア/スイス| |||スイス誓約同盟軍が、ゼンパハの戦いでオーストリア軍を破る
1386年7月25日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王代行「ジギスムント・マルク・ラフ・ツェー・ブランデンブルク大將」(~13870331)
1386年8月5日-09:00|日本|京都府京都市|元中3;至徳3年7月10日|室町幕府、南禅寺を天下第一、五山の上とし、天龍寺・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺を京都五山と定めた
1386年8月7日-09:00|日本|栃木県小山市|元中3;至徳3年7月12日|小山若丸、足利氏満軍襲来と聞き祇園城を放棄して逃走
1386年8月30日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ジョン・デ・スタンレー」(1回目~1387年11月)
1386年9月2日-09:00|日本| |||元中3;至徳3年8月8日|<任命>(南朝)征夷大將軍「尹良親王」(~1392年)
1386年9月13日-09:00|日本|広島県尾道市|元中3;至徳3年8月19日|尾道西国寺薬師堂の造立成る
1386年9月23日-02:00|ルーマニア| |||<死去>ワキア総督・領主「ダニ1世」
1386年9月23日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ミルチャ1世老公」ラドゥー1世の息子(1期目~1394年11月)
1386年9月24日-09:00|日本|熊本県宇土市|元中3;至徳3年9月|今川了俊、河尻・宇土を攻略
1386年9月25日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|元中3;至徳3年9月2日|南朝方の赤松氏範、播磨国清水山で戦死
1386年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラティン・イシュトヴァーン・ラクフィ・サトルニャイ」(~1392年11月)
1386年10月13日 00:00|イギリス| |||<就任>アイルランド 公「ロバート・ト・グィアー」ダブリン侯・9代オックスフォード 伯(~1388.2剥奪~13921122事故死)
1386年10月16日 00:00|イギリス| |||<死去>スタッフォード 伯「Hugh Stafford」
1386年10月16日 00:00|イギリス| |||<就任>スタッフォード 伯「Thomas Stafford」(~13920704死去)
1386年11月9日-09:00|日本|京都府京都市東山区|元中3;至徳3年10月17日|明兆の五百羅漢図(東福寺)できる
1386年11月13日-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ムタスィム」(~1389年)
1386年11月30日-09:00|日本|愛媛県西予市|元中3;至徳3年11月8日|寂証、「齒長寺縁起」をつくる
1387年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「アレクサンドル1世」(~1389年死去)
1387年-04:00|ロシア| |||<即位>スルツク公(リュリク朝・トゥーロフ・イジヤスラフ家)ユーリー
1387年-03:30|イラン| |||<即位>ムザッファル朝スルターン「シャー・ヤフヤー」(~1391年弟のシャー・マンズールに背かれて廃された)
1387年-03:30|イラン| |||<廃位>ムザッファル朝スルターン「ザイヌル・アービデーン」ティムールの侵攻を受け
1387年-03:00|ベラルーシ| |||<廃止>ポロツク公国
1387年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティニア公「ドナート・モロ」(1回目~1389年)
1387年-02:00|エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴォニアのレヴァル司令官「アルント・フォン・アルテナ」(~1397年)
1387年-02:00|ギリシャ/イタリア/トルコ| |||テッサロニキがヴェネチア領となり、ヴェネチアとオスマンが戦争
1387年-01:00|ドイツ| |||<就任>アーレンベルク伯「エーバーハルト2世」(~1454年死去)
1387年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・バン「ラドイスラウス・ラクフィ」(~同年)⇒「デ・イオニジエ・オットー・ルチエンカ」(~1389年)
1387年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ラースロー・ロソツィ」(~1389年)
1387年-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国執事「ベント・ビグ・ゲラッペ」
1387年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>下バイエルン=シュトラウベング 公「アルブレヒト2世」アルブレヒト1世の次男(~13970121)アルブレヒト1世と共同統治
1387年-01:00|アルジェリア| |||<復位>ザイヤン朝スルターン「Abu Zayyan Muhammad2世 ibn Uthman」(~同年)⇒「アブー・ハンム-2世」(~1389年)
1387年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 支配者「トルステイン・エイヨルソソ」(3回目~同年)⇒「エイルクル・グドムンドソソ」(~13880223没)
1387年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Maghan2世」(~1389年)
1387年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルターン「アブール=アッハス=アフマト」(~1393年)
1387年 00:00|イギリス| |||チョーサーが「カンタベリー物語」を著す
1387年1月1日-01:00|スペイン| |||<死去>ナバラ王「カルロス2世」54歳
1387年1月1日-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王国国王「カルロス3世」カルロス2世とジャンヌの男子(~14250908死去64歳)
1387年1月5日-01:00|スペイン/イタリア| |||<死去>アラゴン王兼サルデーニャ国王「ペドロ4世」兼バルセロナ伯「ペドロ3世尊儀王」68歳

1390迄 (1294件)

1387年1月5日-01:00|スペイン/イタリア| |||<即位>アラゴン国王「ファン1世」兼サルデーニャ国王兼バルセロナ伯「ジュアン1世」狩獵王・不注意王・優雅者の愛好者「ペドロ4世」とカスティーリヤの息子(〜13960519死去46歳)

1387年1月6日-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公(シリア王)「アラゴン王ペドロ4世」

1387年1月6日-01:00|スペイン| |||<再任>アンブリアス伯「John1世」(〜1398年)

1387年1月6日-01:00|スペイン| |||<死去>アンブリアス伯「Peter2世」

1387年1月6日-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯「ファン1世」(狩獵王, 不注意王, 優雅者の愛好者)(〜13960519死去)

1387年1月16日-01:00|ハンガリー/ポーランド| |||<死去>ハンガリー王兼ポーランド王ヨシュ1世の2番目の妃「エリザベータ・コトマニッチ」、反対派に幽閉されて暗殺される

1387年1月20日-08:00|中国| ||明・洪武20年|明で魚鱗図冊(土地台帳)を制定

1387年1月21日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年|<交替>筑前国守護「今川貞世」⇒「少貳貞頼」(〜応永11年6月20日(14040727)死去)

1387年1月21日-09:00|日本|静岡県駿東郡小山町|元中4;至徳4年|正巖徳勝(楠正勝)、法雨山甘露寺(菅沼)開基

1387年1月22日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「チャンダリ・アリ・パシャ」(〜14061218死去)

1387年2月25日-09:00|日本|京都府京都市|元中4;至徳4年2月7日|<就任>摂政「近衛兼嗣」(〜嘉慶2年3月26日)

1387年3月31日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「ジグモント1世ルセンプルギ」マリアの夫。マリアと共同統治(トイ王国ジギスムント兼ヘミア王ジギスムント〜14371209死去)

1387年4月-02:00|リトアニア/ポーランド| |||<就任>リトアニア総督「スキルガイ」(〜13920805)

1387年4月9日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||テロキはオスマン帝国の一部(ルメリア州の一部)(〜1403年1月)

1387年4月19日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年4月|<死去>加賀国守護「富樫昌家」

1387年4月19日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年4月|<任命>加賀国守護「斯波義種」(〜元中8・明德2(1391)年)

1387年5月16日-09:00|日本|長野県長野市|元中4;至徳4年4月28日|村上頼国・小笠原清順長基・高梨朝高等、信濃守護斯波義種に叛し、兵を善光寺に挙ぐ

1387年6月10日-09:00|日本|長野県松本市|元中4;至徳4年5月24日|<建立>源豊重、筑摩郡牛伏寺の地藏菩薩像

1387年6月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・洪武19年6月|高麗, 元服を改め明の制度に従う

1387年6月20日-09:00|日本|鹿児島県|元中4;至徳4年閏5月4日|<死去>大隅国守護「島津氏久」元久が継ぐ(〜応永18年8月6日(14110825)死去)

1387年7月16日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年6月|<交替>信濃国守護「斯波義種」⇒「斯波義将」(〜応永6(1399)年10月)

1387年7月22日-09:00|日本|京都府京都市上京区|元中4;至徳4年6月7日|妙顕寺、再び比叡山僧徒により破却

1387年8月10日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク女王「マルグレーテ1世」(〜13960123)

1387年8月16日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年7月2日|<死去>足利直冬(足利尊氏の落胤)

1387年8月23日-01:00|ルウェー/デンマーク| |||<死去>デンマーク・ルウェー連合国王「オラヴ4世ホーコンソン」

1387年8月23日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク摂政「ルドルフ大司教モークス・ニールセン・ニールセン」國務院議長(〜13870810)

1387年8月23日-01:00|ルウェー| |||<就任>ルウェー摂政「オグムント・フィンソン・ヘストボー」(〜13880202)

1387年9月2日-09:00|日本|茨城県つくば市|元中4;至徳4年7月19日|足利氏満、上杉朝宗に命じ小田孝朝を常陸国の小田城に攻撃/孝朝敗れ男体城に逃れる

1387年9月13日-09:00|日本| ||元中4;至徳4年8月|<任命>下野国守護「結城基光」(〜永享2年5月11日(14300601)死去)

1387年9月26日-02:00|ルマニア/ポーランド| |||モルダヴィアはポーランドの家臣(〜1394年)

1387年10月5日-09:00|日本| ||元中4;嘉慶1年8月23日|北朝が「嘉慶」に改元

1387年10月9日-09:00|日本|長野県長野市|元中4;嘉慶1年8月27日|村上頼国等、信濃守護代二宮氏泰を善光寺横山城に攻む、市河頼房、氏泰に属して之と戦ひ、敗れて埴科郡生仁城に遁る、尋で、頼国等、同城を攻めて、之を陥る

1387年10月19日-01:00|イタリア| |||ミラのジャン・ガリアツォが、ヴェローナを奪う

1387年11月-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||ティムールがイスファハーンに侵略し、住民を虐殺

1387年11月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ミス司教アレクサンダー・デ・バルスコット」(1回目〜13891025)

1387年11月7日-09:00|日本|長野県塩尻市|元中4;嘉慶1年9月26日|北党諏訪頼寛頼継の兵、小笠原清順長基の軍と、筑摩郡熊井原に戦ひて敗る

1387年11月12日-09:00|日本/中国|沖縄県|元中4・嘉慶元年10月|汪英紫、南山王の使者として明に渡る(翌年5月、明から帰る)

1387年11月30日-09:00|日本|兵庫県淡路市|元中4・嘉慶元年10月19日|<死去>淡路国守護「細川氏春」満春が継ぐ(〜応永6(1399)年11月20日死去)

1387年12月20日 00:00|イギリス| |||イングランド王リチャードの軍が、専制に抵抗する貴族らの軍に敗れる

1388年-08:00|モンゴル/中国| ||明・洪武1年8月2日|明軍がガコルムを略奪し、破壊

1388年-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝第3代国王「ポー・ロマーチャーティート1世パングワ王」

1388年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第4代国王「トーンラン」(〜同年死去)⇒第5代国王「ラーメスワン」(2代目と同じ人物)(〜1395年死去)

1388年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>西チャガタイ・ハン国ハン・スルタン・マフムト「ソルハトミシュの子」(〜1403年)

1388年-05:00|モルデイヴ| |||<即位>ティムク朝スルタン「Abdullah2世 Suvama Abaarana」Sultana Dhaainの夫(〜同年)⇒「Osman1世 Sundhura」(〜同年)

1388年-05:00|モルデイヴ| |||<即位>ヒルリ朝スルタン「Hassan1世 Bavana」(〜1398年)

1388年-05:00|モルデイヴ| |||<廃位>ティムク朝「Sultana Dhaain Keerithi Maha Rehendi」

1390迄 (1294件)

1388年-03:30|イラン| ||カラ・ユンル朝のムハンマド・ガフアリズを占領
1388年-03:00|イラク/イラン/アゼルバイジャン/トルコ| |||<即位>黒羊朝スルタン「カラ・ユスフ」(~1399年)
1388年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公国「ネオ1世」(~13940925)
1388年-02:00|トルコ| |||<即位>サルハン侯国「ヒズリヤ」(~1390年)
1388年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペルズ公「シモウイ4世」(~1426年)
1388年-02:00|シリア・アラブ| |||アレクサ 総督ヤルバガーがマムルーク朝バルククに反乱
1388年-02:00|ルーマニア/トルコ| |||ドブルジャをオスマン帝国が支配(ルメリア・ビライエットのシリストラ・サンジャクの一部)
1388年-01:00|スペイン| |||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「エンリケ」カスティーリャ王ファン1世の長男(後のカスティーリャ王エンリケ3世) (~13901009~14061225死去)
1388年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<譲位>ブランデンブルク選帝侯「ジギスムント」従弟のヨーフストに
1388年-01:00|ドイツ| |||<即位>ブランデンブルク選帝侯「ヨーフスト」ヴェンツェル2世の従兄弟、モラヴィア辺境伯(⇒2. 26、ルクセンブルク公)
1388年-01:00|ドイツ| |||ケルン大学が創立される
1388年-01:00|ドイツ| |||シュトラスブルクがユダヤ人を追放し、以後ドイツ各地に広がる
1388年 00:00|イギリス| |||<就任>ダグラス伯「Archibald Douglas」(~1400年死去)
1388年1月-01:00|アルバニア| |||<死去>アルバニア公・デュラツツ領主「カール・アントニア・ストビア」
1388年1月-01:00|アルバニア| |||<就任>アルバニア公・デュラツツ領主「シエルジ・カール・トビア」(~13920818死去)
1388年2月 00:00|イギリス| |||<剥奪>アイルランド公・ダブリン侯・9代オックスフォード伯「ロバート・ト・ヴァー」(~13921122事故死)
1388年2月2日-01:00|ルウェー| |||<就任>ルウェー摂政「マルグレーテ・ヴァルデマルスダッター」(~13890908)
1388年2月3日-09:00|日本| ||元中4; 嘉慶元年12月25日|<死去>美濃・尾張・伊勢・志摩国守護「土岐頼康」70歳/養子の康行が継ぐ(元中7・明德元(1390)年閏3月解任)
1388年2月8日-07:00|ベトナム| ||大越・光泰1年|<即位>陳朝(大越)皇帝「順宗」(~1398年(光泰11年)退位)光泰と改元(~1398年)
1388年2月8日-07:00|ベトナム| ||大越・光泰1年|<廃位>陳朝(大越)皇帝「廃帝」捕えられる
1388年2月9日-09:00|日本|広島県尾道市|元中5; 嘉慶2年|天寧寺塔婆が五重塔として造立(元禄5(1692)年上部の二層撤去)
1388年2月23日 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「トルシュタイン・エイヨルソン」(4回目~1389年)
1388年2月26日-01:00|ルクセンブルク| |||<即位>ルクセンブルク公「ヨーフスト」ブランデンブルク選帝侯・モラヴィア辺境伯(1回目~14020915)
1388年2月26日-01:00|ルクセンブルク| |||<退位>ルクセンブルク公「ヴェンツェル2世」
1388年2月29日-01:00|ポーランド| |||<死去>グニェフコヴォ公「グワディスワフ・ピャウィ」(生年年未詳)
1388年3月3日-09:00|日本| ||元中5; 嘉慶2年1月25日|<死去>若狭国守護・三河国守護「一色範光」子の詮範が継ぐ(〜応永13年6月7日(14060622)死去)
1388年3月11日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘル司教ガレラント・ト・ヴァイラヴァ」(~14150415)
1388年3月26日-01:00|イタリア| |||<兼任>フェラーラ侯「アルベルト」⇒フェラーラ・モデナ・レッジョ侯(~13930730死去)
1388年3月26日-01:00|イタリア| |||<死去>フェラーラ・モデナ・レッジョ侯「ニコロ2世」
1388年4月7日-09:00|日本| ||元中5・嘉慶2年3月|<交替>尾張国守護「土岐康行」⇒「土岐満貞」(~明德3・元中9(1392)年正月解任)
1388年4月9日-01:00|オーストリア/スイス| |||スイス同盟軍が、オーストリア軍を破る(ネフェルス戦い)
1388年4月22日-09:00|日本|大阪府堺市美原区|元中5; 嘉慶2年3月16日|楠木正勝、舎弟正元、和田正利、同正秀、河内国平尾荘に兵を挙げ
1388年4月23日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|元中5; 嘉慶2年3月17日|南軍恩地満正、貢志、崎山等討死して敗れ、千早破城に退く
1388年5月7日-09:00|日本| ||元中5・嘉慶2年4月|<交替>遠江国守護「今川貞世」⇒「今川仲秋」(⇒応永2(1395)年8月17日遠江西半国守護〜応永6(1399)年12月)
1388年5月7日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・洪武20年4月|高麗・洪武年号をやめる
1388年5月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ヴァイテンベルク公・ザクセン選帝侯・リュネブルク侯「ヴェンツェル」
1388年5月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>リュネブルク侯「ハインリッヒ寛大公」(~14161014死去), 「ベルンハルト1世」(~1409年)
1388年5月14日-09:00|日本| ||元中5; 嘉慶2年4月8日|<就任>摂政「二条良基」
1388年5月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン選帝侯「ヴェンツェル」
1388年5月15日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ヴァイテンベルク公「ルドルフ3世」(~14190611死去)
1388年5月19日-09:00|日本|石川県金沢市|大越・光泰1年4月13日|日什上人、延兼山妙立寺の本尊大曼荼羅を図す
1388年5月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「ケル2世」
1388年5月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「ヴェルナー」(~1417年)
1388年5月29日-01:00|イタリア| |||ベネチア、ヴァスコニ家との同盟
1388年6月2日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「ジョン・ホランド」(~14000116死去)
1388年6月13日-09:00|日本|愛知県一宮市|元中5; 嘉慶2年5月9日|土岐詮直が、守護土岐満貞の入部を妨げようと、一族同士が黒田宿で戦う
1388年6月22日-09:00|日本|茨城県笠間市|元中5; 嘉慶2年5月18日|上杉朝宗、常陸国男体城を陥れ小田直高は戦死
1388年7月4日-09:00|日本| ||元中5・嘉慶2年6月|<任命>安房国守護「上杉憲方」(~明德元・元中7(1390)年)
1388年7月12日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武20年6月9日|<即位>高麗王「昌王(後廢王)」(~13891202退位)

1390迄 (1294件)

1388年7月12日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武20年6月9日|<退位>高麗王「王ウ(前廢王)」
1388年7月15日-09:00|日本| ||元中5・嘉慶2年6月12日|<就任>関白「二条良基」(~同日)⇒<就任>関白「二条師嗣」
(~応永元年11月6日)
1388年7月16日-09:00|日本| ||嘉慶2・元中5年6月13日|<死去>二条良基(生年1320年/元摂政・関白、歌人)
1388年8月3日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||元中5・嘉慶2年7月|了俊、高麗人250人を送還し大蔵経を求める
1388年8月3日-09:00|朝鮮/日本/韓国| ||高麗・洪武20年7月|倭寇、高麗の光州を陥し、州郡を焼く
1388年8月14日 00:00|イギリス| ||<死去>ダグラス伯「James Douglas」戦死
1388年8月14日 00:00|イギリス| ||<就任>ダグラス伯「Archibald Douglas」(~1400年死去)
1388年8月23日-01:00|ドイツ| ||テッフィングンの戦いで、ヴェルテンベルク伯が、シュヴァーベン都市同盟を破る
1388年9月-02:00|ラトビア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リガ・オ・騎士団団長代行「ヨハン・フォン・オーレ」(~1389年)
1388年9月1日-09:00|朝鮮/日本/韓国| ||高麗・洪武20年8月|鄭地が楊広・全羅・慶尚3道の兵を率いて倭寇を撃退
1388年9月17日-09:00|日本|大阪府堺市美原区|高麗・洪武20年8月17日|<平尾合戦(河内国)>楠木正勝は吉野の朝廷に詮議して、花山院長親らが率いる追加の軍勢約800を与えられ、子飼いの騎兵約200騎と合わせて計約1000の軍勢を率いて、深更、河内国平尾を通る経路で和泉方面へ向かうとしたが、赤坂城に駐留していた山名氏清が南朝方の4倍近い約3500騎を動かして、五更(おおよそ午前2時半~午前5時ごろ)平尾に先回りし、陣を敷いた/正勝は、出鼻をくじかれたが、そこへ歴戦の老兵である賛川三郎左衛門と恩地伊勢守が楠木一門を鼓舞し、正勝は南朝最精鋭である楠木氏の騎兵200余騎を率いて自ら陣頭で武器を振るい、さらに両側から歩兵の野伏約500、平一揆約300を自在に繰り出して山名軍に矢を浴びせかけた/敵の矢が尽きかけたところで、氏清は左右の騎馬を前に出し、楠木軍の両翼の歩兵を攻撃/南朝方が動揺したところで、数で圧倒する氏清は、まず中軍の山口弾正率いる騎兵300が出て鼓貝で威圧し、全軍を進め、さらに山名氏麾下の備前守貞平が鉾をふるい一騎で平一揆7人を倒すという武勇を見せたので、正勝の軍は散々に破れて四散/南朝方の死者数は200余り
1388年9月20日-05:30|インド| ||<死去>トゥグルク朝スルタン「フィールズ・シャー・トゥグルク」
1388年9月20日-05:30|インド| ||<即位>トゥグルク朝スルタン「ギヤースッディーン・トゥグルク2世」(~13890314死去)
1388年11月-01:00|ドイツ| ||ドイツ諸侯軍が、ライン都市同盟を破る
1388年11月1日-08:00|モンゴル| ||元・天元10年|<死去>モンゴル帝国(北元)皇帝「トグス・テムル」イェステルに殺害される
1388年11月1日-08:00|モンゴル| ||元・天元10年|<即位>モンゴル帝国(北元)皇帝「イェステル」(~1391年没)
1388年11月21日-01:00|イタリア| ||フランチスコ・ダ・カッテラ、ジョヴァンニ・ガリアツォ・ヴァイスコンティに、パドヴァ・ベッセルノ・フェルト・トレヴィゾを割譲
1388年12月1日-09:00|日本|静岡県周智郡森町|元中5・嘉慶2年11月2日|一宮小国園大菩薩を高木五郎左衛門が建てる
1388年12月13日-01:00|イタリア| ||トレヴィゾ、ヴェネツィアに引き渡される
1388年12月24日-01:00|ドイツ| ||<死去>メクレンブルク=シュヴェリーン公「アルブレヒト4世」
1389年-08:00|インドネシア| ||<死去>マジャパヒト王国国王「ハヤム・ウルク」
1389年-08:00|インドネシア| ||<即位>マジャパヒト王国国王「グイクラマワタルタナ」(~1429年)
1389年-06:30|ミャンマー| ||<即位>アラカン国王「ウザナ2世」(~1391年)
1389年-05:30|インド| ||<死去>イリヤス・シャーヒー朝「シカンダル・シャー」暗殺される
1389年-05:30|インド| ||<即位>カシュミール・スルタン朝スルタン「Sikander」(~1413年)
1389年-05:30|インド| ||<即位>サマ朝スルタン「Jam Nizamuddin1世」(~1391年)
1389年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>モウリス・ハン国ハン「ヒズル・ホージャ」トゥグルク・ティムールの子、ティムールの義父(~1399年)
1389年-04:00|ジョージア| ||<死去>イメレティ王「アレクサンドル1世」
1389年-04:00|ロシア| ||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「レング・ゲニス・アルキル・イェイス」(~1407年)
1389年-04:00|ロシア| ||<即位>第7代ベロゼロ公「アントレイ・ド・ミトリエヴィチ」モスクワ大公ドミトリ・ド・ドンスコイの息子(~1432年)
1389年-04:00|ジョージア| ||<即位>イメレティ王「ジョージ1世」(~1392年死去、ゲルジア王国に併合)
1389年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ド・メニコ・ブオノ」(~1391年)
1389年-02:00|ラトビア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リガ・オ・騎士団団長「ヴェンネマル・フォン・ブリュッケネ」(~1401年死去)
1389年-02:00|エジプト| ||<即位>カイロ・アッバース朝第10代カリフ「ムタワッキル1世」(~14060109)
1389年-02:00|エジプト| ||<即位>ブルジ朝スルタン「Salah-ad-Din Hajji2世」(~1389年)
1389年-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「イヴァン・ハルジユナ」スラヴォニア・ハン(2度目~1392年)
1389年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のハン「テトリク・ブベク」(1度目~1392年)
1389年-01:00|ドイツ| ||<就任>フェルデンツ伯「Henry4世」(~1393年)
1389年-01:00|ベルギー| ||<就任>リエージュ公「バリエンのヨハネ」(~1418年退任)
1389年-01:00|イタリア| ||<廃位>ナポリ王「ラディスラオ1世」
1389年-01:00|アルジェリア| ||<復位>ザイヤン朝スルタン「アブー・タシュフィーン2世」(~1393年)
1389年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド支配者「ヴァグナス・ヴァルソン」(~1413年)
1389年 00:00|マリ| ||<即位>マリ帝国マサ「Sandakii」(~1390年)
1389年1月28日-09:00|日本| ||元中6・嘉慶3年|<交替>山城国守護「赤松義則」⇒「山名氏清」(~明徳元・元中7(1390)年)
1389年1月28日-09:00|日本|静岡県富士市|元中6・嘉慶3年|萩次郎左衛門尉氏誉、日什を開山に、妙松寺(北松野)開基
1389年1月28日-09:00|日本| ||元中6・嘉慶3年1月|<死去>能登国守護「本庄宗成」
1389年2月6日 00:30|イラン| ||イラン・ネイシャブルで地震(M7.3)、死者極多数

1390迄 (1294件)

1389年2月24日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「マルグレート1世」(~14121028死去55歳)
 1389年2月28日-01:00|フランス| |||<死去>オマル伯「John4世」
 1389年2月28日-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯「John5世」(~14521218死去)
 1389年3月7日-09:00|日本| ||元中6;康応1年2月9日|北朝が「康應」に改元
 1389年3月15日-05:30|インド| |||<死去>トゥグルク朝スルタン「ギヤースッディーン・トゥグルク2世」
 1389年3月15日-05:30|インド| |||<即位>トゥグルク朝スルタン「アブー・ハクル・シャー」(~1390. 8)
 1389年3月15日-09:00|日本/韓国/朝鮮|長崎県対馬市|元中6;康応元年2月18日|高麗の兵船100艘、倭寇の根拠地である対馬を攻め、船300艘と海岸の家屋を焼き、俘虜100余人を奪還
 1389年3月27日-09:00|日本| ||元中6;康応1年2月29日|<死去>善如(生年1333年/浄土真宗の僧、本願寺第四世)
 1389年3月28日-09:00|日本|三重県|元中6;康応1年3月1日|南朝方の北畠顕泰が伊勢の北部を攻め、一色詮範・仁木義長らが防戦
 1389年4月15日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>下バイエルン=シュトラウベング公「ヴィルヘルム1世」
 1389年4月15日-01:00|オランダ| |||<死去>エノー伯「ギヨーム3世」
 1389年4月15日-01:00|オランダ| |||<就任>エノー伯「アルベール1世」(~14041213死去)
 1389年4月15日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>下バイエルン=シュトラウベング公「アルブレヒト2世」アルブレヒト1世の次男。アルブレヒト1世と共同統治(~13970121死去)
 1389年4月27日-09:00|日本|沖縄県|元中6;康応1年4月|汪英紫、シムルに漫湖を望む岡の上にグスクを築かせ、豊見グスクと名付ける/シムルは豊見グスク按司となり、大グスクにはヤフが入り大グスク按司になる
 1389年5月5日-01:00|ドイツ| |||ヴェンツェルが、エガーで国内平和令を発布
 1389年5月19日-04:00|ロシア| |||<死去>モスクワ大公・ウラジミール・スズダリ大公「トミリー・イワノヴィッチ・トンスコイ」
 1389年5月19日-04:00|ロシア| |||<即位>モスクワ大公「ヴァシリ1世トミリエヴィッチ」(~14250227死去)
 1389年5月29日-09:00|日本| ||元中6;康応1年5月4日|<死去>但馬・備後・伯耆・隠岐国守護「山名時義」但馬国において(44歳)
 1389年5月29日-09:00|日本| ||元中6;康応1年5月4日|<任命>但馬・隠岐国守護「山名時熙」(~明徳元・元中7(1390)年3月)
 1389年5月29日-09:00|日本| ||元中6;康応1年5月4日|<任命>伯耆国守護「山名氏之」(明徳元・元中7(1390)年3月)
 1389年5月29日-09:00|日本| ||元中6;康応1年5月4日|<任命>備後国守護「山名義熙」(~明徳元・元中7(1390)年3月18日)
 1389年6月1日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>パフリー・マムルーク朝スルタン「ザ・ヒル・パルクク」
 1389年6月1日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<復位>パフリー・マムルーク朝スルタン「サーリフ・ハッジー」(2回目~1390. 1)
 1389年6月15日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国第3代スルタン「ムラト1世」コソボの戦いで偽って投降したセルビア貴族に刺殺される
 1389年6月15日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第4代スルタン「バヤズィト1世」ムラト1世の息子(~14020720~14030308死去)
 1389年6月15日-01:00|セルビア| |||<死去>セルビア侯「ラザール・フレベリヤノヴィッチ・ツァーリ・ラザール」コソボの戦いでセルビアの政治エリートの大半と共に殺された
 1389年6月15日-01:00|セルビア| |||<就任>セルビア摂政「ミリカ」(~1393年)
 1389年6月15日-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア公「ステファン・ラザレヴィッチ・フレベリヤノヴィッチ」(⇒1402年8月、専制君主~14270719)
 1389年6月15日-01:00|セルビア/トルコ| |||第1次コソボの戦い、オスマントルコ軍がセルビア連合軍を撃破
 1389年6月24日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・洪武21年6月|李成桂はクーデター(威化島回軍)を行い、高麗・辛偶王の子の33代・昌王(辛昌)を即位させ(-1389)洪武年号に戻す
 1389年8月5日-09:00|日本|茨城県|元中6;康応1年7月14日|<死去>常陸国守護「(常陸佐竹氏第10代当主)佐竹義宣」44才/子の義盛が継ぐ(~応永14年9月21日(14071022)死去)
 1389年8月21日-09:00|日本/韓国/朝鮮|沖縄県|高麗・洪武21年8月|琉球国中山王察度、高麗に入貢して倭寇の俘虜を返し、硫黄・蘇木・胡椒などを送る
 1389年9月8日-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー王「エリク3世」(⇒13960123、兼デンマーク王「エリク7世」)
 1389年10月15日-01:00|バチカン| |||<死去>第202代ローマ教皇「ウルバヌス6世」[1318年生~]享年71
 1389年10月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジョン・デ・スタンレー」(2回目~13911003)
 1389年11月2日-01:00|バチカン| |||<就任>第203代ローマ教皇「ボニファティウス9世」(~14041001死去)
 1389年12月-02:00|ギリシャ| |||<死去>テッサリア副帝「アレクシオス・アンゲロス・フィラントロポス」
 1389年12月-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア副帝「マヌエル・アンゲロス・フィラントロポス」(~1393. 12廃位、オスマン朝によるテッサリア併合)
 1389年12月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武21年11月15日|<即位>高麗王「恭讓王」(13920731譲位)
 1389年12月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・洪武21年11月15日|<廃位>高麗王「昌王(後廃王)」
 1389年12月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック伯「ジョン・ヘイステイングス」
 1390年-05:30|インド| |||<死去>ベンガル・スルタン朝スルタン「シカンダル・シャー」
 1390年-05:30|インド| |||<即位>ベンガル・スルタン朝スルタン「ギヤースッディーン・アーザム・シャー」(~1410年死去)
 1390年-03:00|ウガンダ| |||<建国>キタウエンダ王国
 1390年-01:00|フランス| |||<即位>アキテーヌ公「ジャン・ド・ガン」ランカスター公ジョン・オブ・ゴーント(~1397年)
 1390年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコンゴ「ルケニル・ニミ」建国(~1420年

1390迄 (1294件)

)

1390年-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「マルティノ1世」(~14090725死去)1401年までマリアと共同統治

1390年-01:00|イタリア| |||<即位>トント司教公「George1世 von Liechtenstein」(~1419年)

1390年-01:00|アルバニア/トルコ| |||オスマン朝バヤズィット1世が西アナトリアを制服、アルバニアを攻略

1390年-01:00|ドイツ| |||ホシュタイン=レンズブルクはキール(プレンを含む)、ゼーゲベルクを併合

1390年-01:00|クロアチア/ボスニア=ヘルツェゴビナ| |||ボスニアがシベニコとコトルの間のアドリア海沿岸を支配(~1391年)

1390年 00:00|イギリス| |||<死去>初代マリ伯「ジョン・ダンバー」

1390年 00:00|イギリス| |||<就任>2代マリ伯「トマス・ダンバー」先代の息子(~1422年死去)

1390年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マナサ「Madhan3世」(~1400年)

1390年1月17日-09:00|日本| ||元中7; 康応2年|<交替>薩摩国守護「今川了俊」⇒「島津伊久」(~応永元(1394)年8月解任)

1390年1月17日-09:00|日本| 静岡県島田市|元中7; 康応2年|大通融土、曹洞宗富洞山天徳寺(大草)開山

1390年1月17日-09:00|日本| 静岡県沼津市|元中7; 康応2年|石雲山龍音寺(大平吉田)開創

1390年1月17日-09:00|日本| 静岡県浜松市浜北区|元中7; 康応2年|仲翁澄大、観音山光明寺を、現在地に伽藍を移し、山号名を金剛山庚申寺(宮口)と改める

1390年1月17日-09:00|日本| 静岡県浜松市南区|元中7; 康応2年|元道円密(宗良親王にお供してきた公家出身)、臨濟宗方広寺派護法山地蔵院(高塚町)を開山

1390年1月17日-09:00|日本| 富山県南砺市|元中7; 康応2年|本願寺5世綽如が井波に瑞泉寺を建立<浄土真宗大谷派>

1390年1月17日-08:00|中国| ||明・洪武23年|<即位>モーンリスタン=ハン国ハ「ヒズル・ホージャ」(~1399年死去)

1390年1月17日-08:00|中国| ||明・洪武23年|明が第2次肅清、刑死3万人といわれる胡党の獄

1390年1月21日-02:00|エジプト/シリア=アラブ| |||<即位>ブルジ朝スルタン「ザーヒル・バルーク」(2期目~13990620死去)

1390年1月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホシュタイン=キール伯「アドルフ9世寛大伯」

1390年2月8日-07:00|ベトナム| ||大越・光泰3年1月23日|<死去>チャン王「阿答阿者(Binasuor、制蓬峩)」海潮の戦いで、部下・羅唼が陳朝とひそかに通じ、火砲の砲撃を受けて船は撃沈戦死

1390年2月8日-07:00|ベトナム| ||大越・光泰3年1月23日|<即位>チャン王「羅唼(Jaya Simhavarman6世、閻勝)」(~1400年死去)

1390年2月14日-09:00|日本| 大分県宇佐市|元中7; 康応年1月29日|宇佐八幡宮、遷宮

1390年2月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツ選帝侯「ルプヒヒト1世」

1390年2月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>プファルツ選帝侯「ルプヒヒト2世」(~13980106死去)

1390年2月25日 00:00|イギリス| |||<就任>ラランド伯「エドワード・オブ・ハリッジ」初代ヨーク公の子(⇒14020801兼ヨーク公・ケンワリック伯~14151025死去)

1390年3月2日 00:00|イギリス| |||<就任>アキネス公「ジョン(オブ・ゴート)」初代ランカスター公(~13990203死去)

1390年3月17日-02:00|ルーマニア| |||ドブルジャはワキアの一部(~1396年10月)

1390年3月18日-09:00|日本| 兵庫県|元中7; 康応2年3月|山名時熙が但馬で挙兵(明徳の乱)

1390年3月20日-02:00|トルコ| |||<即位>トレビズント帝国第18代皇帝マヌエル3世(~14170305)

1390年4月-01:00|クロアチア| |||<即位>クロアチア対立王「ボスニア王トヴルトコ1世」(~13910310)

1390年4月3日-09:00|日本| 兵庫県|元中7; 康応2年3月17日|<明徳の乱>山名氏清、満幸、軍勢を率いて山名時熙討伐のため但馬国へ

1390年4月4日-09:00|日本| ||元中7・康応2年3月18日|<交替>隠岐国守護「山名時熙」⇒「山名満幸」(~元中8・明徳2(1391)年11月8日解任)

1390年4月4日-09:00|日本| ||元中7・康応2年3月18日|<交替>但馬国守護「山名時熙」⇒「山名氏清」(~元中8・明徳2年12月30日(13920124)死去)

1390年4月4日-09:00|日本| ||元中7・康応2年3月18日|<交替>伯耆国守護「山名氏之」⇒「山名満幸」(~元中8・明徳2(1391)年11月8日解任)

1390年4月4日-09:00|日本| ||元中7・康応2年3月18日|<交替>備後国守護「山名義熙」⇒「細川頼之」(~元中9・明徳3年3月2日(13920325)死去)

1390年4月12日-09:00|日本| ||元中7; 明徳1年3月26日|北朝が「明徳」に改元

1390年4月14日-02:00|トルコ| |||<即位>ニカイア帝国対立皇帝「ヨハネス7世パレオロス」アントロニコス4世パレオロスと第二次ブルガリア帝国皇女キリツァ・マリアの子、オスマン帝国皇帝バヤズィット1世とジェノヴァ共和国の支援を受けて祖父を追放して即位(~9.17退位~14080922死去)

1390年4月14日-02:00|トルコ| |||<退位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス5世パレオロス」(~13910216死去)

1390年4月16日-09:00|日本| 岐阜県飛騨市|元中7; 明徳元年閏3月|<土岐康行の乱>美濃國守護土岐康行、美濃国池田郡小島城で挙兵

1390年4月19日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「ロバート2世」74歳(誕生1316年)ステュアート朝の創始者

1390年4月19日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「ロバート3世」ロバート2世とエリザベス・ミューの息子(~14060404死去69歳)

1390年5月 00:00|イギリス| |||<就任>9代キャリック伯「デヴィッド・ステュアート」先代の長男(~14020326死去)

1390年5月7日-09:00|日本| 静岡県浜松市北区|元中7; 明徳元年閏3月22日|<死去>無文元選(後醍醐天皇の子)、臨濟宗深奥山方広寺(引佐町奥山)にて/68歳

1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明徳元年閏3月25日|<解任>美濃・尾張・伊勢国守護「土岐康行」

1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明徳元年閏3月25日|<交替>山城国守護「山名氏清」⇒<再任>「赤松義則」(~

1390迄 (1294件)

元中8・明德2 (1391) 年9月)

1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明德1年閏3月25日|<土岐康行の乱>幕府、土岐康行を討つ
1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明德元年閏3月25日|<任命>伊勢・志摩国守護「仁木満長」(~元中8・明德2 (1391) 年10月)
1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明德元年閏3月25日|<任命>備中半国守護「細川頼之」(~明德3・元中9年3月2日 (13920325) 死去)
1390年5月10日-09:00|日本| ||元中7; 明德元年閏3月25日|<任命>美濃国守護「土岐頼忠」(~応永2 (1395) 年隠居)
1390年6月19日-01:00|イタリア| ||ミラノがパドヴァを失う
1390年8月3日-01:00|イタリア| ||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジャコモ・フレゴッソ」(~13910406)
1390年8月31日-05:30|インド| ||<即位>トゥグルク朝スルタン「ナシルッディーン・ムハンマド・シャー」(~13940120死去)
1390年9月16日-03:00|ペラルーシ| ||<死去>ムスチスラヴリ公「カリガ・イラ」
1390年9月17日-02:00|トルコ| ||<退位>ニカイア帝国対立皇帝「ヨハネス7世パレオロゴス」(~14080922死去)
1390年9月17日-02:00|トルコ| ||<復位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス5世パレオロゴス」次男マヌエル2世の救援とオスマン帝国の支援によって反撃に成功(~13910216死去)
1390年9月27日-01:00|フランス| ||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公(シャトワ=ロレーヌ家)シャルル2世(1世) (~14310125)
1390年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ゴッツォ・デ・イ・ムッチョリーノ」「バルトリノ・デ・アントニオ」
1390年10月9日-01:00|スペイン| ||<死去>レオン国王・カスティーリャ国王「ファン1世」(誕生1358年)
1390年10月9日-01:00|スペイン| ||<即位>レオン国王・カスティーリャ国王「エンリケ3世」兼トラスタマラ公(~14061225死去)
1390年10月9日-09:00|日本| 熊本県宇土市|元中7; 明德元年9月|今川了俊・今川義範、深堀時弘・深堀時清らを率いて宇土・河尻両城を陥れる/菊池武朝、良成親王を奉じて八代の名和顯興に依る